



マッダ新報第十九卷第一號(昭和七年一月號)目次

昭和六年度に於ける照明界の進歩	東京電氣株式會社 副社長	清水與七郎	(二)
内面半艶消電球採用に依る増收策	東邦電力株式會社	吉川康太郎	(二五)
新春詠(一)	高遠電燈株式會社 取締役	豊島晃	(二八)
マッダ閃光電球による懸賞寫真入選發表			(二九)
ニュース	編輯部		(三二)
照明			(三二)
製品			(三三)
ラヂオ			(三四)
照明學校			(三四)
雜報			(三五)
ある日の酒	田中貢太郎		(三六)
編輯後記に代へて			(四〇)

昭和六年度に於ける照明界の進歩

東京電氣株式會社
副社長

清水其七郎

一 緒 言

茲に昭和七年を迎へ聊か心氣の新たなるものあるに際し、恒例により昨年度の照明界に於ける進歩の跡を探り、以て其構成分子としての我々の努力の結果を回顧反省し今後の活動に資したいと思ふ。

顧みれば昨年は實に多難の一年であつた。一昨年の金輸出解禁以來一般經濟界の不況は年と共に又月と共に深刻の度を高め、一方國際經濟に於ても獨逸財政の破綻、英國金本位制の停止或は米國の増稅等と世界的不景氣は其停止する所を知らず、加ふるに國內にては三度内閣を代へ、遂に歳末に於て金輸出再禁止を斷行するの止むなきに至つた。今後我國及び世界の財界並に產業界が如何になり行くかは、今俄かに豫斷を許さぬものがあるが、或は今後幾分前途に光明を發見し得るには非るかとも考へられる。若し果して然りとすれば今後の產業界は、玆數年間に嘗めた苦難を跳躍の前の前奏曲として、新たなる進展を示すべく誠に同慶に堪えぬ次第である。

遮莫昭和六年の照明界は經濟史上未曾有の不況に災されて著しい發達を見たものは少かつたが、斯かる時代には内に深く研究を進むべきときで、以下に記す所其事項多きを得ないとはいへ、今後に期

待し得ることの尠からざるは筆者の信じ且つ知る所である。

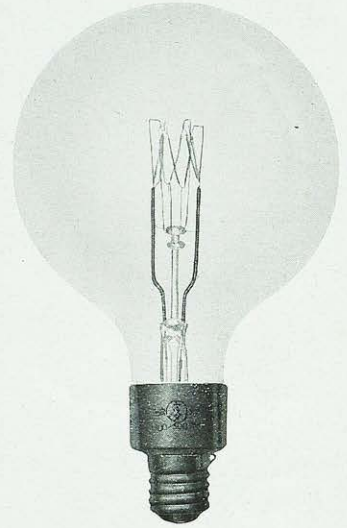
二 電 球

一、新電球 電球界の發達中特に新製品としてあぐるものは尠いが、各部に部分的改良を施されたものは其例實に夥しい。其第一は大容量電球即ち二キロ、三キロ、五キロ或は一〇キロの電球であるが、何れも内部的に種々の改良が加へられ、特に二キロ、三キロの電球に至つては今日に於ては最早一、〇〇〇ワット等と同様普通品として特別の注意を要することなく製作し得るに至つた。是等の内探照燈用三キロワット電球は本年に於ける新製品と申してよからう。其他の用途としては舞臺照明或は活動寫眞撮影に於てスポット・ライトとし、或は航空機の著陸場照明に更に或は夜間スポーツに多量な將來を約束して居る。一〇キロワット電球の發散光束は約三〇〇、〇〇〇ルーメン、其一個に使用せられる纖維を以て二〇ワット電球を製作するとすれば優に七、五〇〇個を得られる。恐らく十年前の照明界には夢想し得ぬ所であつたらう。今日の處一〇キロ以上の電球に對する需要はない爲に、これ以上の容量のもの、製作は考慮されて居ないが、將來これが要求せらるゝことが多くなれば更

に研究發達を見るであらう。

内面半艶消電球の出現は一昨年末のことにかゝり今これを再述するの要はないが、螺旋纖條を用ひた一〇ワット電球が一〇〇ヴォルト型に出來たことは特記に値すると思ふ。從來低容量の螺旋纖條は製作が著しく困難のため一二・五ワット或は一三ワットを以て最低として居たが、今般一〇ワット電球製作可能となり、從來の茄子型直線纖條の五―六燭に代ることとなり、茲に完全に直線纖條電球に置換へらるべき内面半艶消電球の全線は完成したのである。内面全艶消電球の特長を其儘繼承し、然も透明電球同様に内部を點檢し得ることは、全製作工程の自動機械化と相待つて、電球界の覇者としての資格を十分に有するものと考へられる。

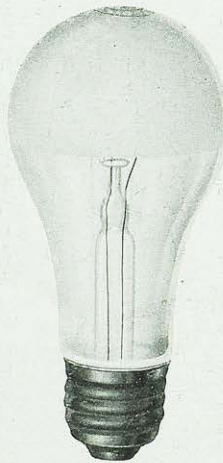
第三の發達は耐震電球であつて船舶用、電車用其他震動特に甚しい場所に多く用ひらるべきもので、何れも特殊の纖條を用ひて居る。其構造の例は圖に示す如く、二本の螺旋を頂部のニツケル線を以て連續させたもの、或は纖條を矩形狀に繼線したものなどがあ



第 1 圖
探照燈用 3 キロワット電球

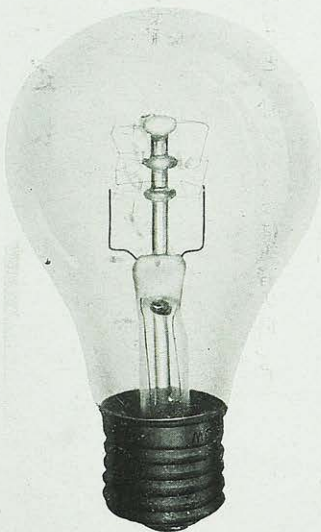
り、夫々の用途を有つて居る。

第四の發達は全光電球と稱する從來の乳色電球と同一の効果と、従つて同一の使命とを有するもので透過率は著しく良好である。シヤンデリヤ、ブラケット等に電球を露出せしめた儘にて使用する場合等に適當であらう。



第 2 圖
10 ワット
内面半艶消電球

第五の發達は上記と同様のものであるが、有色塗料を以て硝子球内面より着色したもので、從來の外画スプレー着色に代り風雨に對し何等痛痒を感じぬから正に遺憾なきサイン電球である。ネオン・サインは些か飽かれ氣味にて、ネオン管と白熱電球併用の益々多からんとする機運に際會し、其出現は誠に時を得たりといひ得やう。



第 3 圖
マ ツ グ 耐 震 電 球



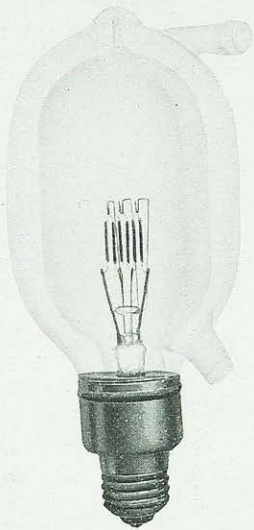
第 4 圖
マ ツ ダ 著 色 電 球

現在市場
に發表せ
られたも
のは白、
黄、琥珀、
赤藍等の

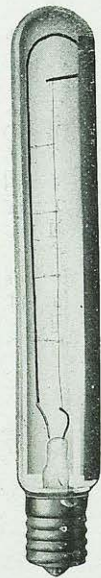
色のもので、中型及び並型口金の一〇ワット・サイン電球及び二〇、三〇、四〇、六〇ワット等で、此出現により褪色、著色劑による口金汚損等の凡ゆる缺點が一掃され、普通電球と壽命に變化なき鮮明な色彩を放つ色電球が完成した譯である。

水冷式電球の出現も一顧の價值がある。實物幻燈を使用するに際し困難を感じることは電球の輻射熱によつて、映寫紙のそのことで此輻射熱を減少させるために出來たものが即ち水冷式電球である。

これは瓦斯入電球の周圍を更に硝子球で二重に包み、其二硝子層間に水を流し、其水層によつて赤外線を吸収しようとするものであるが、此場合光は二枚の硝子壁を経、更に水によつて光の吸収を多くするから、光の能率は低下することは止むを得ないが、實驗の結



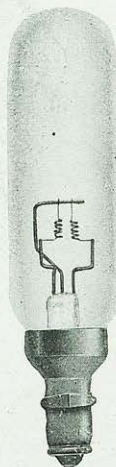
第 5 圖
水 冷 式 電 球



第 6 圖
マ ツ ダ 鏡 面
管 型 電 球

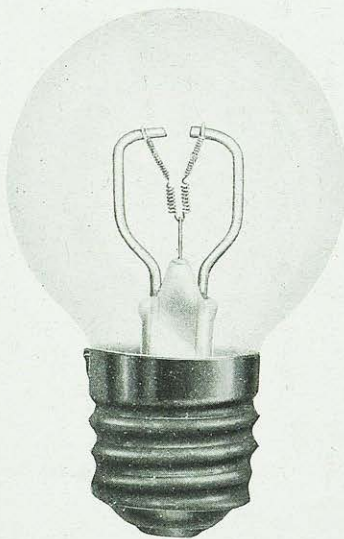
果によれば其低下率は極めて僅少で、實用上何等差支ないことが判つた。實物幻燈取扱者にとつて一の福音といふてよからう。

飾窓、陳列函等に使用せらるべき管型電球に對し、硝子球半面を鏡面とし反射笠の必要を除去したのも出來た。これは中型二五ワットのみに就て製作されて居るが、從來のニッケル鍍反射樋を用ひた四〇ワットと其綜合能率を畧々等しくするから頗る經濟的である。



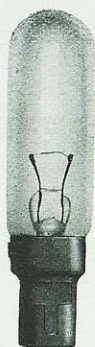
第 7 圖
マ ツ ダ トー
キー 用 電 球

以上の外、局限された需要を有するものとしてトーカー用電球、飛行機用電球等の新發達があつた。前者に於ては纖維形狀の絶對的不變、寸法の光學的正確等が要件であるから、其材料竝に製作には



第 8 圖
マ ツ ダ 飛 行 機 用 電 球

極めて慎重な注意を要する。後者は飛行機内に取付けられるもので其一例を第八圖に示した。



第 9 圖
バッテリー電球

其他管型硝子球の内面に白色塗料を被

覆し、之を七本直列に點燈してシャンデリヤをなすシャンデリヤ用電球、或は第九圖に示されるバッテリー電球の發達も昨年のことと屬する。

二、特殊電球 健康意識の發達は我國のみならず世界を通じて見られる現象で、或はスポーツの流行となり或は健康増進劑の夥しい出現となつて、近代人の健康至上の觀念を如實に示してゐる。これに



第 10 圖
ダゲデツン電球
マヤヤ

隨伴して葦外線療法が多數の醫學者及び生物學者の支持を受けて人々の注意を惹く様になつたが、此療法も從來醫家の獨占的技術なるかの如く考へられ、其發生裝置なる太陽燈即ち水銀弧燈も割合高價な上に、取扱上にも注意を要するため一般家庭に大いに普及するこ



第 11 圖
フラマインダイツ
ランプライト

とは期待し得なかつた。偶々昭和五年秋冬の交に始めて本邦に現れた所謂バイタ

ライト・ランプは、同種電球たる獨逸のフイタルクス電球或は米國のCX電球に比し何等遜色がないのみならず、其硝子球の葦外線（特に所謂健康線）透過量は却つて幾分多いことは實驗によつて確かめられた所である。昭和六年に入つては從來の透明硝子球の外に、三〇〇ワット及び五〇〇ワット何れも白色内面艶消及び青色内面艶消の硝子球を用ひたものが出來た。後者の硝子球は青く著色しても健康線の透過は透明のものと殆ど差異がないのみならず、これから發する青い光は落ちついた感じをあたへ、且つ赤外線を多く吸収する爲に暑さを感じる



第 12 圖
電球用鑑識マツダ

硝子球を使用することによつて柔かい光線を得て、眩輝を滅殺し得ることは一進歩と見てよいと思ふ。

バイタライト・ランプの如き葦外線電球に對してインフラライト・ランプと稱する赤外線電球の發達も昭和六年の所産に屬する。此兩者は同種のものとも考へられるが、其身體に及ぼす作用は全然別であつて、即ち葦外線的作用は比較的表面的（其皮膚下浸透度〇・二—〇・五耗）であるに反し、波長七、五〇〇—一五、〇〇〇オンゲストロームの所謂近赤外線は一〇—三〇耗も深く皮膚下に浸透する。これ即ち赤外線が適當なる理由であつて、之を葦外線と共に身體にあてると充血作用を起し、皮膚を葦外線に對して敏感にし葦外

ことが少い。又内面艶消による健康線及び光の損失も實際的には無視してよいから、艶消

線の効果を助けるが、單獨にも種々な治療的效果をあげ得る。インフラライト・ランプは此目的に適應したものと好評である。

鑑識用電球もインフラライト・ランプに酷似するものであるが、其理論従つて用途は大いに異つて居る。即ち天然物は三、五〇〇オングストローム近傍の波長の輻射を受ける時は、其物質特有の燐光を發することにより、斯くの如き波長の輻射を豊富に出す特殊の硝子を以て設計された電球であつて、暗所で之を以て諸物質を照らす時は、可視線では發見し得られない區別をなし得て、簡單な程度の物質の眞偽鑑定に使用し得る便利がある。

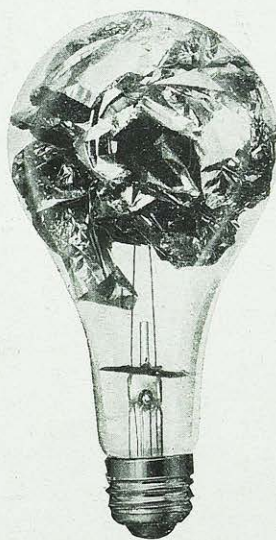
寫眞閃光電球の發達も昭和六年に於ける特記事項の一である。これは其壽命が殆ど瞬間的なことに於て、電球として在來の觀念と稍異なるものではあるが、それが光源たること、其形狀の全く普通の電球に酷似することに於て、之を電球の範疇に入れることは差支がないと思ふ。

これは極めて薄いアルミニウム箔を酸素中で燃焼させ、之によつて強烈な閃光を得て寫眞の撮影に使用するもので、其電源は一・五ヴォルトから一二五ヴォルト程度に及ぶから、乾電池一個でも普通の電燈線でも差支ないことになる。但し回路を閉ぢてから閃光を發する迄の時間は、使用電源の電壓によつて長短があり、大體二ヴォルトの電源では〇・〇二五秒、一〇〇ヴォルトで〇・〇一秒程度である。又全閃光時間は〇・〇六六秒と稱せられ、其間の光量四七、〇〇〇ルーメン秒、最大光束四、五〇〇、〇〇〇ルーメンなる結果が得られて居る。

之を使用するに當つてはよく設計せられた笠を用ひると、笠のな

い場合の四―五倍の能率をあげ得るので、電球一個でマグネシウム閃光粉四―五瓦に優に匹敵する。

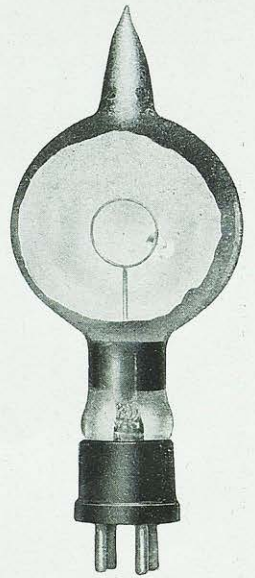
本電球の考案はドイツのヨハネス・オステルマイエル氏によるもので、我國に於ける該特許の實施權は東京電氣會社の手に在り、本邦に於ける製作開始は昭和六年五月末であるが、爾來僅々七月間に賣上實に十二萬個に及び今後益々増加の傾向に在る。



第 13 圖
寫 眞 閃 光 電 球

ネオン管燈は依然として需要が多かつた。東京電氣會社は從來より液體空氣よりアルゴン及び窒素を發生させて居たが、更に之より微量の存在たるネオン及びヘリウムの精製に成功し、茲にネオン管或はヘリウム管の完全なる國產化を見たことは些か誇りとする所である。ネオン電球も引續いて需要増加し將來五―六燭程度の低光度白熱電球に置換へ得る日も遠くはないであらう。昭和六年度の需要は約七萬個であつた。

最後に近來電氣に關する諸應用方面の寵兒たる觀を呈する光電管は引續き研究が繼續され、最近は濾光器との組合せに於て、最も肉眼の視感度曲線に近いカリウム光電管が得られ、米國製品との比較試験に於て遙に彼に優ることを自認せしめた。優良國產品に乏しい



第 14 圖

カ リ ウ ム 光 電 管

今日誠に同慶の至と申さねばならない。但し需要は未だ少く昨年は約五百個程度であつた。

三、電球需要の趨勢 昭和五年の不況時代は引續き昭和六年の全期を覆ひ、地方によりては料金引下要望の意味に於ける減燭同盟すら出現するに至つた。従つて各電燈事業者は負荷増進の目的を以て増燭勧誘等を実施せられた向もあり、又それによつて相當効果をあげられた例もなしとは申されぬが、大體に於て取附燈數の増加率は減退し或は却つて減少せるものすらあつた。

然も照明知識の普及は益々其功を收め、平均光度は著しく増加するに至つた。今これを數字的に検討するに、先づ従量制用として販賣せられつゝある所謂赤マーク電球の需要比率を見ると、第一表の如く六〇ワットが斷然優位を占め總數の三割以上となり、其平均容量も従つて四九ワットとなり、其推定平均光束は實に五六〇ルーメンを算するに至つた。

第一表 昭和六年に於ける従量用電球の需要比率

電球の大きさ (ワット)	一〇	一三	一五	二〇	二五	三〇	四〇	六〇	八〇	一〇〇
需要比率(%)	〇・一	四・〇	三・四	九・二	五・〇	一・六	三〇・五	三〇・九	一・四	二・九

然し乍ら之を電球全般に就て見る時は、其需要狀況は第二表の如く變化し、需要電球の平均容量は約三五ワットに低下し、其相當平均光束は約三二〇ルーメンを示す。但し本表では五―六―八燭を一〇ワット以下の項に、一〇燭を一三ワット、一六燭を二〇ワットに夫々換算編入した。

第二表 一般電球のワット別需要比率(昭和六年)

電球の大きさ (ワット)	以下	一三	一五	二〇	二五	三〇	四〇	六〇	八〇	一〇〇	其他
需要比率 (%)	七	三	一	三	五	三	一〇	一七	二五	一	七

更に之を最近の標準品種たる螺旋纖維電球のみにつき需要分布を見ると、四〇ワット最も多く六〇ワット、二〇ワット之に次ぐことが示され、四〇―六〇ワットと二〇ワットとは異なる方面に使用せられつつあることが考へられ、又平均容量四四ワット従つて平均光束四三〇ルーメンは第四表の直線纖維電球のそれと對比して一段高き値があたへられ將來の發展を暗示する。前年との比較のため瓦斯入電球のみの需要比率を見ると、四〇―六〇ワットが漸増し八〇ワットは依然として少い。

第三表 螺旋纖維電球の需要分布(%)

年度	一〇	一三	一五	二〇	二五	三〇	四〇	六〇	八〇	一〇〇	其他
大正十三年						三〇	四〇	六〇	八〇	一〇〇	其他
大正十四年						三〇	四〇	六〇	八〇	一〇〇	其他
大正十五年						三〇	四〇	六〇	八〇	一〇〇	其他
昭和二年						三〇	四〇	六〇	八〇	一〇〇	其他
昭和三年						三〇	四〇	六〇	八〇	一〇〇	其他

本欄は瓦斯入電球のみに關する比率を示

昭 和 六 年 〇・二 二・六 一・四 一・六 四 四・四 三・〇 二・五 九・二 一・六 一・五 一・六 一・五	昭 和 六 年 〇・二 二・六 一・四 一・六 四 四・四 三・〇 二・五 九・二 一・六 一・五 一・六 一・五	昭 和 五 年 〇・二 二・六 一・四 一・六 四 四・四 三・〇 二・五 九・二 一・六 一・五 一・六 一・五	昭 和 四 年 〇・二 二・六 一・四 一・六 四 四・四 三・〇 二・五 九・二 一・六 一・五 一・六 一・五
---	---	---	---

第四表は直線纖維眞空電球のみの需要分布を示すものであつて、今日の如く螺旋纖維電球全盛時代に在つては、其意義は往年の如く重要性を有つて居ないが、尙地方電燈需要の概況を知るに參考となると思ふ。本表で顯著な變化は多年電球需要界の覇者として君臨して居た一〇燭電球が一六燭と其地位を代へたことで、これは一面平均光度の向上を語るものであらう。

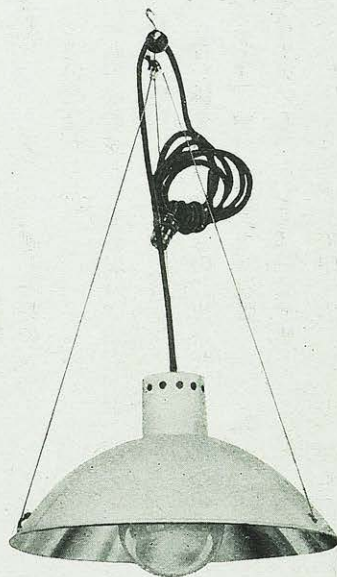
第四表 直線織條電球の燭光別需要分布(%)

昭和六年	昭和五年	昭和四年	昭和三年	昭和二年	大正十五年	大正十四年	大正十三年	年度	燭光
七	六	六	九	八	九	八	九	五	
一	一	一	一	一	一	一	一	六	
八二八三六	五三四三四	四三三三五	四三六二九	四三二三〇	五二九二四	六三〇二七	五三三二一	八一〇一六	
六	〇	一	一	七	九	六	六	六	四三三二二
四	四	四	六	六	六	七	八	五〇	其他
四	二	一	三	四	一	三	九	一	

昭和二―五年の數字には眞空螺旋纖維電球を包含する、又ワツ卜制の分は相當燭光に換算した。

三 照明器具

一、屋内照明器具 一般に照明器具は之に取附けられる電球の發



第 15 圖
5 號 型 バ イ タ ラ イ ト



第 16 圖

6 號 型 バ イ タ ラ イ ト

達があつて始めて行はれる。然して昨年の如き一般經濟界の不況時代には、特別に高級なる器具は別として大體に於て實用本位なものが選ばれる。例へばバイタライト器具中でも、昭和六年に發表された所謂五號型及び六號型は何れも實用に基礎を置き、特に六號型は實用廉價を第一義とし體裁を第二位に置いたスタンド型である。之に對し五號型は一般電燈線からコードにより聯結して任意の位置に

吊下げ得る構造になつて居るから、家庭用としては極めて便利である。此吊下ける部分は三本の丈夫な長さを加減し得る紐で吊し、反對の傾斜を任意に調整し得る裝置になつて居る。又紐の長さの調整は第一五圖に於て知られる通り極めて簡単な金具を滑らすことによつてなしうるから便利である。

屋内全般照明用として設計せられ昭和七年の市場に現はるべきものに所謂新型トロヂャリヤがある。それは外球が上下二部に分れ、



第 17 圖

新 型 ト ロ チ ャ リ ヤ

其開閉する所には特殊のバンドが使用されてあるため、電球取換の際にも外球を器具より外すことの必要もなく、従つて高所で取換をなすに便利である。これの外球の上半を透明にすれば半間接照明器具となるべく、下半を不透明反射體とし上部を透明にすれば間接照明器具として使用し得る。加ふるに外球支持物の直徑が小さいから



第 18 圖 J 型 K 型 飾 窓 用 反 射 笠

能率よく且つ體裁優美である。

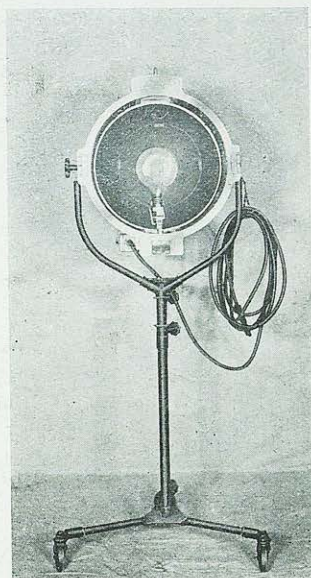
又從來市場に在るトロヂャリヤに適合するものとしてテコライト・トロヂャリヤがある。これは後述する如く光澤色調の不變なると絶縁物としてすぐれたることゝ於て、

金屬製品に比し著しく超越した長所を有する。現在黑色及びチコレイト色の二種がある。

尙飾窓用反射笠として從來の市場品の如く笠面の脱離し易い缺點を改良し、取附の上に保護塗料を施し、更に其上に尙一回塗料を塗り之に厚い鍍金を施したものが出來た。これは機械的に堅牢であるのみならず、塗料と外氣とを遮斷してあるから耐久力は大である。特殊用途のものとしては一八吋サン・スポットの實用化をあげ得る。これは三キロワット電球の出現によつて具體化されたもので、

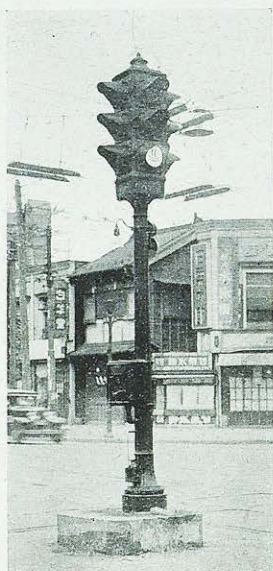
東京電氣會社に於て之が設計製作を行つた。

二、屋外照明器具 交通機關の急激な進歩と都市人口集中により都市交通難は激化され、交通の圓滑は害せられ歩行者の安全は脅



第 19 圖

18 吋 サ ン ス ボ ッ ト



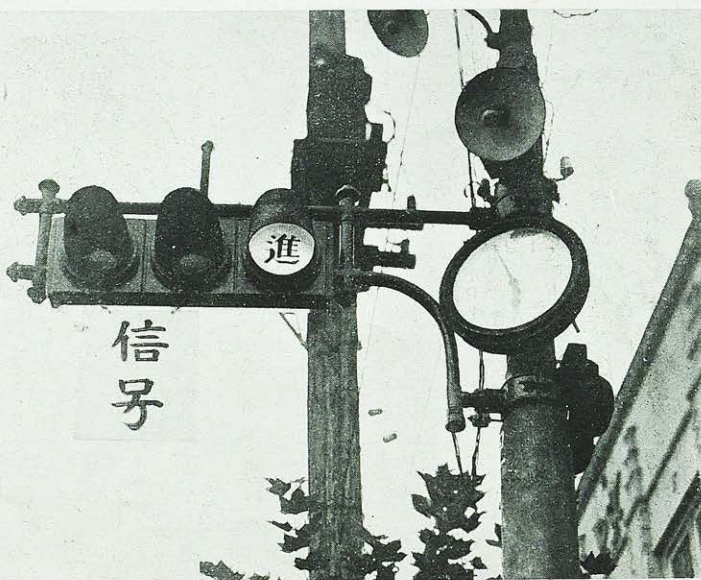
第 20 圖

マ ツ ダ 中 央 懸 垂 式
交 通 整 理 燈

かされるに至り、特に最近自動車の普及は益々之を助長しつゝある。斯くの如き交通上の安全を確保し街路能率を増進するためには、從來通路交叉點の中央に於て行はれた手信號のみでは、到底目的を達成し難く是非とも科學的な整理法に據らなければならぬ。

此目的に適ふ様に設計せられたものは所謂交通整理燈である。これは赤、橙、青の三色硝子レンズ内に收められた標示燈を用ふるもの

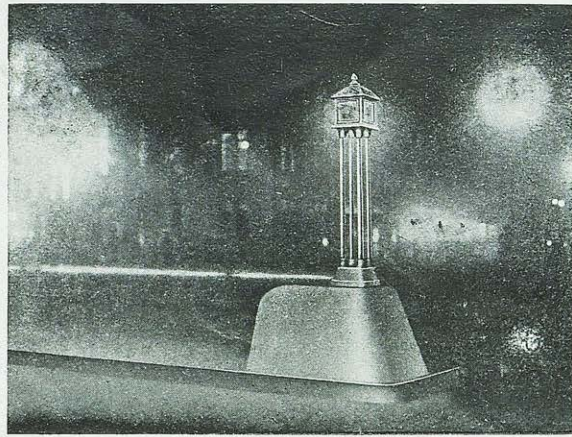
であつて、それが順次に組織的定時的に變遷することによつて交通整理を行ふもので、其方式は種々あり、中央懸垂式、四脚式或は燈柱式及びブラケット式が其主要なものである。特にブラケット式は道路の幅員廣く交通頻繁なる場所に使用される。此等はレンズの直径を一〇吋とし使用電球一〇〇ワットのものが出來、現に東京、京都兩市に於て採用せられた居る。



第 21 圖 マ ツ ダ ブ ラ ケ ッ ト 式 信 號 燈

東京市に於ては上野の交通整理燈施設に先だち、交通量の著しく多い街路の電車昇降場及び安全地帶數百箇所に同一型の標示燈を建

て第二〇圖に示す如き設備を行つた。此標識燈では從來の安全地帯標識燈と異り、赤色光の代りにアンバー色を採用して危険信號との混同を避け、其爲リツブールしたアンバー色熾娥硝子を用ひて旁々美觀と明視とに意を用ひて居る。



第 22 圖 安 全 地 帯 標 識 燈

尙バラベツト
には所謂ロー
ド・サインを埋
込み自動車の近
接して前照燈の
光が之に當る時
は、其反射光に
よつて運轉手は
バラベツトの位
置が明かに認め
得る様になつて
居る。此ロード
サインも東京電

氣會社の考案にかゝるものである。

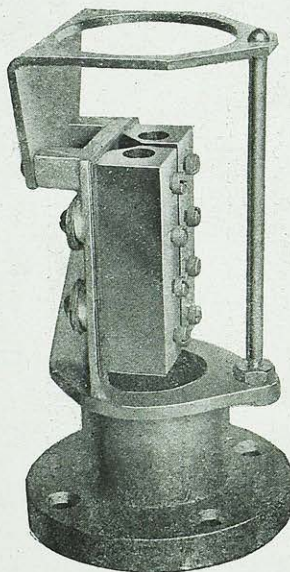
三、電燈器具 電燈附屬器具に於て最も著しい發達は、ベークライト即ち石炭酸樹脂系練物製品が從來の金屬製品を一掃したことである。東京電氣會社に於ては之をテコライトと名づけ、之を以てテコライト・ソケット、テコライト・プレート、テコライト・タンブラー或はテコライト・レセプタクル等を製作して市場に發表した。是等の特質を摘記すると、(イ)耐熱(攝氏一五〇度迄使用可能)且つ



第 23 圖
テコライト・タンブラー

むことがない、(ニ)相當體裁に留意し仕上は美麗であること等をあけることが出来る。種類はソケット以外は黒色及びチヨコレート色の二種があり、各人の好みに應ずることが出来る。

尙一〇キロ又は五キロワットの如き高容量電球の發達に伴ひ、之に使用せらる、プロング・ソケットが製作せられた。普通の捻込ソ



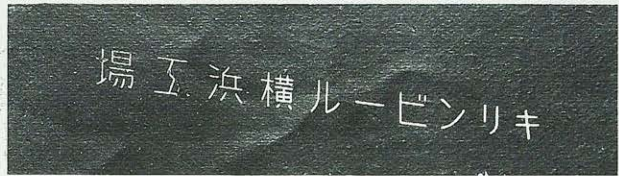
第 24 圖
プロング・ソケット



第 25 圖
中型ソケット

ケットを以てしては斯の如き大電流に堪へ得ないので、圖の如く二本足を以て挿込み之を螺子を以て締附けるのであるが、全體がアル

耐水的である、(ロ)一―二キロワットの過負荷に對しても弧絡を起すことなく働作する、(ハ)製品は各部互換性を有し各部分は動作により弛



ニウム鑄物で出来て居るから、形の大きな割合に軽く取扱は簡便である。又此種のものに於て電氣的絶縁の完全なることは重要な條件であるが、



第 26 圖 キリンビールのネオンサイン

之には良質の雲母を数枚重ねて使用し以て遺憾なからしめて居る。

尙既述鏡面管型電球の口金は中型が使用されてある爲、之に適合すべき中型ソケットも出来た。

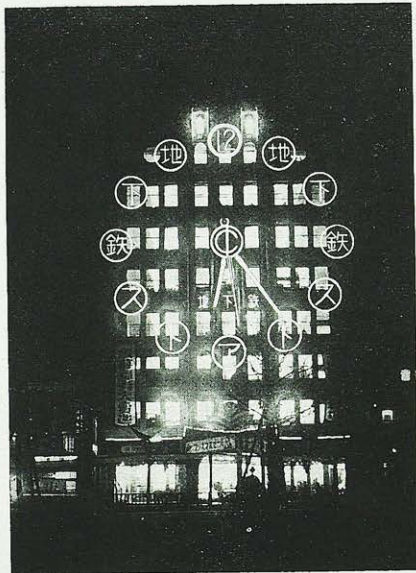
これは上述のテコライト材料を用ひてあるから陳列函の如き密閉された場所でも温度上昇に耐へ、又屋外用としても十分使用し得る。

四 屋 外 照 明

一、電氣サイン 電氣サインの流行は昨年度に於て更に一大飛躍

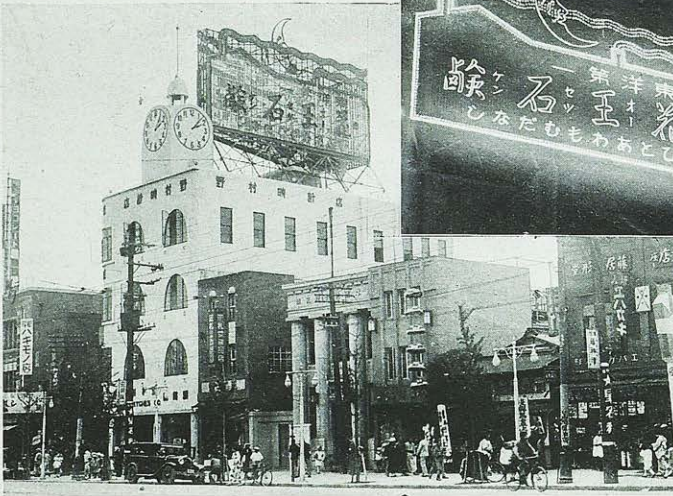
を見せ、大規模と嶄新とを競ひつ、次第に發達の度を高めて居る。

ネオン管サインは依然として需要多く其使用先を見るに、活動寫眞館、カフェー、料理店、食堂、百貨店は勿論、菓子、食料品、藥品化粧品等の廣告によく採用せられ、更に進んで電鐵、病院、銀行等に及んだ。大規模なもの、例として第二六圖に圖示した麒麟麥酒會社横濱工場に於て電球サインを改造してネオン・サインとなつたものは、ネオン管の延長六〇米に及ぶものである。又東京上野驛頭に在つて夜の下車客の眼を駭かせる地下鐵ビルのネオン・サイン時計も其大規模なることに於て、將又單に時計として世界最大たるに止らず、テレクロン親時計に依つて調節せられたる東京電燈會社の電路周波數の均齊を利用し、同期電動機の廻轉を直ちに時の指示に轉換したるものであつて、サインとしても其嶄新性と大規模性を主張するに足るものがある。今大時計に關する二三の數字を見るに次の如くである。



第 27 圖

地下鐵ビルのネオン時計



第 28 圖 花 王 石 鱖 の サ イ ン

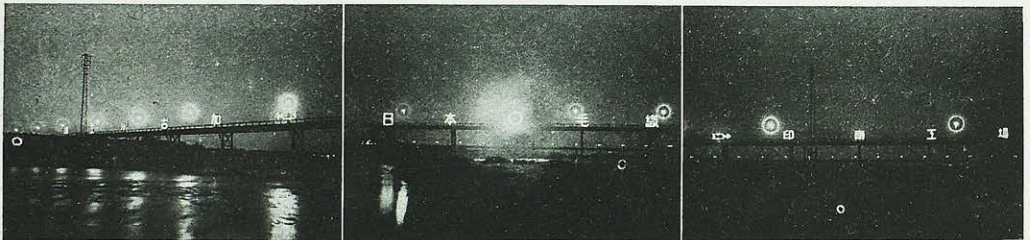
文字盤の徑 二〇米
秒針の全長 八・四米
分針の全長 七・六米
時計の全長 六・〇米
使用電動機 五馬力
之を従来世界一と稱せられた米國ニュー・ジャーシー市の時計に比較するも殆ど二倍に近い。これが建設に就ては東京地下鐵道會社は勿論、考案者たる川原田教授、設計者

たる大塚鐵工場等の努力によることであつて、又これがネオン・サインとして夜の上野に時を知らしむるに至つたに就ては、其功をネオン管の設計

製作を担当した東京電氣會社の技術と努力とに歸すべきであらう。

電球とネオン管との組合せは昭和五年來隨所に見らるゝに至つたが、其巨大なものとして東京上野廣小路に去る七月建設せられた花王石鱖の両面サインをあける。これは圖の如く工場の圖案の輪廓に青色ネオン管及び橙色電球を使用し、工場煙突の煙をあらはすためには黄、橙色電球を點滅させる。此サインに使用せられた電球数は約一、五〇〇個、ネオン管の延長は三四〇米、看板の大きさ一二米×六米といふ實に關東最大のサインである。然もサインの高さは地上約三〇米、加ふるに絶好の地の利はサインの効果を著しく加重して居る。

之に對し關西に於ける雄は兵庫縣加古川橋上に架設せられた日本毛織會社の大サインであつて、青色及び赤色のネオン管と黄色及び赤色の二〇ワット電球の組合せに成るもの、何れも東京電氣會社の設計製作にか



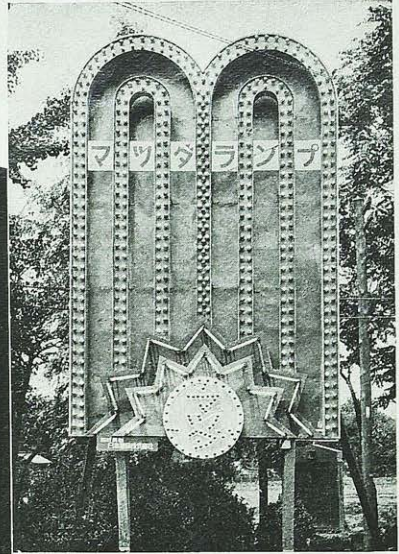
第 29 圖 日 本 毛 織 の 加 古 川 サ イ ン

ゝるもので
ある。

電氣サイ
ンに就て尙
特記すべき
は東京市電
氣局が昭和
六年夏同局

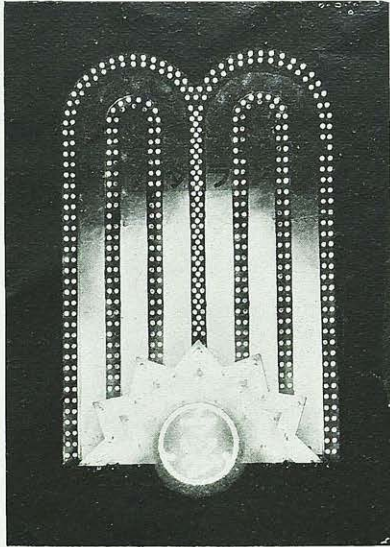
創立二十周年記念として電氣サイン展覧會を催し、又關西に於ては七月二十日より三十日間神戸市に於て照明學會主催の下に行はれ、更に七月十二日より四十日間札幌市に於て北海道拓殖博覽會主催、照明學會後援の下に開催され、多大の注意を惹いたことである。

又トーキング・サインに就ては一兩年前から有力新聞社に於て施設されて居たが、一昨年電燈五十年祭の記念事業として企圖され創



第 30 圖

東京市電 20 周年記念
サイン展の本社出品



立せられた日本電氣サイン株式會社は、昭和六年四月東京京橋第一相互館屋上にトーキング・サイン設備を完成し、電光ニュースのサービスを開業した。同施設は縦八尺横七〇尺の大いさで、單に文章のみならず漫畫、商標等も自由に使用し得るのと、色電球を用ひ得る設備のあることを特色として居る。



第 31 圖 日本電氣サイン會社のトーキング・サイン

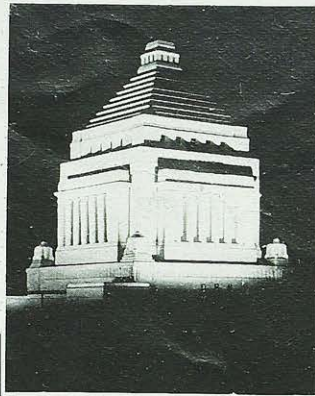
二、溢光照

明 溢光照
が近代建築美
と不可離の關
係にあること
は普ねく認め
られた所であ
つて若し之な
くんば、折角
の美しい建築
も僅かに半日
間の觀賞を得
るのみであ
り、又若し之
ある時は建築
美は更に一段

と發揮せられるであらう。昭和六年秋英國に開催された國際照明會議或は巴里に開かれた植民地博覽會等に於て、都市美効果が溢光照明によつて如何に累加されたかは既に一般の認識する所であつた。

我國に於ける昨年度の溢光照明施設として特記に値するものは、目下建築中の帝國議事堂及び増築完成せる三越本店のそれである。

帝國議事堂は今や其外廓の工事殆ど完成し、東京麹町區永田町の高臺に白い花崗岩を以て圍まれた雄姿が聳え立つて居るが、中央に位する地上六六米の高さを有する高塔は、左右に貴衆兩議院を控へ廣く東京中心地は勿論、遙かに房總の地をも望み得るものである。これに溢光照明施設の計畫があつたことは、蓋し當然とはいへ實に所を得たといふべく、本年以後に於ける開院式が如何に生彩を添へ清く明るい政治を象徴するに役立つかは期待に難からぬ。



第 32 圖
帝國議事堂高塔
の溢光照明



今其照明設計の概要を見るに、照明面積は各面約九〇〇平方メートルに對し一、〇〇〇ワットの投光器五六個即ち五六キロの電力を以て約一〇〇ルクスの照度を得んとするもので、投光器は光柱の開き三二度、光柱光束八、七二〇ルーメンと稱せられる。昨年十一月試験的に行はれた場合には、投光器四八個を用ひ正面及び斜面の三方より照明し、第三三圖の如き照明效果を得た。

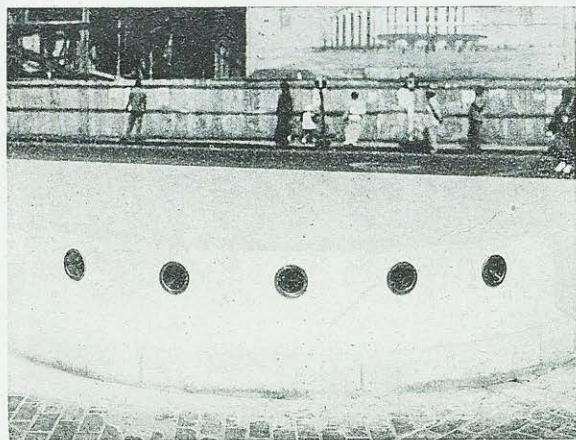
東京日本橋の三越本店の最頂端をなす高塔の照明は襲附前硝子を



第 33 圖
三越塔の溢光照明

使用せる五〇〇ワットの投光器（東京電氣會社登録番號六一一五）を以て行はれた。東南北面各六個、西面五個、又上部小塔に對して各面一個宛で四個、合計二七個によつて一〇〇ルクスの照度が得られた。更に之が上方にはネオン管燈を取附け文字通り錦上花を添ふるの觀がある。

三、交通制御 昨年一月の本欄に於て既に述べた如く、警視廳が昭和五年九月原則として色彩信號を以て文字信號に代へたことは、



第 34 圖 ロードサインの一例

交通整理燈の發達にとつてエボック・メーカーキングな出來事であつた。即ち之を動機として交通整理燈の設置せらるゝもの昭和六年に於て東京市内一五個所、京都市内二〇個所、大阪市内二個所の多きに及んだ。之に使用する電球は一般に一〇〇ワットであつて、相當遠方よりも信號を明視し得る。又東京市に於ける施設では銀座、京橋方面にブラケット式、神田下谷方面に中央式が用ひられて居るが、京都大阪では一般にブラケット式が採用されて居る。

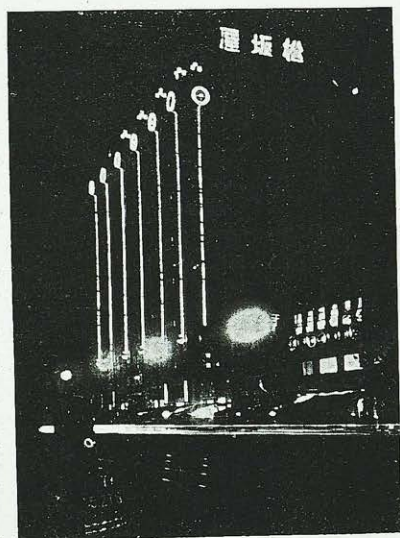
此外東京市に於ては安全地帯の防壁電燈設備を困難とする所にロード・サイン約四〇〇個を施設し、何等光源の設けなく自動車又は自轉車等の前照燈よりの投射光を利用して、前途に障礙物の存在を

知らしめ危険防止の實をあげて居る。配線に多額の費用を要する山間の道路等には特に適當せるものといひ得る。

尙東京市には新宿通りに安全地帯標識燈が設けられたことも特記に値する。

四、街路照明 昭和六年六月六日より三日間東京市に於ては交通協會、照明學會其他十二團體の聯合主催の下に東京市道路祭が行はれた。其目的とする所は帝都道路鋪裝の完成、道路愛護思想の啓發、路上工作物整理による都市美の維持等であるが、其中に街路照明の完備も包含されて居ることは推察に難くない。此道路祭に當つて昭和通り街路照明は既設の一四二基五〇〇ワットを特に一、五〇〇ワット電球に變更することを照明學會の提案により實行し高燭街路照明の實例を示した。

五、裝飾照明 百貨店其他の大商店が其建物前面に電球裝飾を行ふことが流行し始めたことに就ては、昭和五年の進歩を述べた際に言及した所であるが、其勢ひは昭和六年に至つて更に助長せられ、百貨店に於ては東京銀座の松坂屋、日本橋三越本店等に其例を見、東京淺草の活動寫真街にも其方式を採用せるものが頗る多かつた。松坂屋の電球裝飾は長さ三〇米の垂直ボーダー八條の上部に環狀



第 35 圖

松坂屋の電球裝飾

の裝飾を附し環の中央にはネオン管を配し、環をなす電球は其周囲を廻轉して居るかの如く點滅させる。電球は内面著色電球二、三〇〇個を用ひ、ボーダー一條に對し一八〇個が取附けられてある。

六、スポーツ照明 夜間のスポーツは從來はテニスコートの照明等に局限せられて居たが、一昨年来ゴルフ・リンクの照明、ブルの照明等が次第に實現を見、今や進んで神宮球場の照明も計畫せらるゝに至つた。



第 36 圖

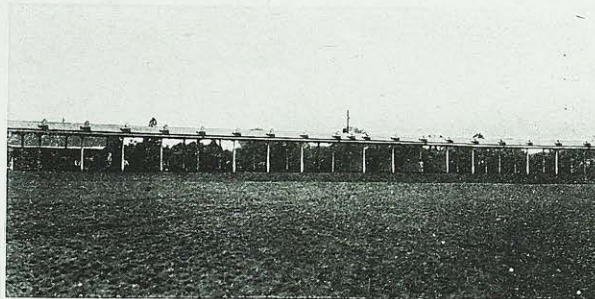
東京三越本店の裝飾照明

五倍に達し、これが照明は單に經濟的方面のみより見るも不利益を招くことはないとのことである。今や電球界に於ては二キロ、三キロ、五キロ或は一〇キロの如き大容量電球の製作可能となり、如何なる照度も必要に従つてあたへられるから、スポーツ照明の普及は

之が完備せられた曉には競技者にとつて極めて便利なるのみならず、一般觀衆にとつても都合となることは勿論であつて、米國の實例によれば夜間の方が入場者數に於て遙かに多く晝間入場者數の二―

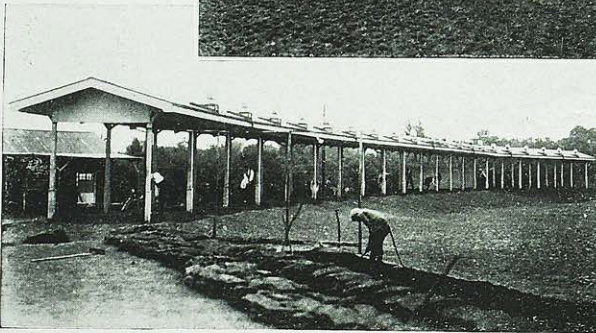
充分に期待し得る。

小型ゴルフ場は近頃更に増加し何れも照明施設を有する。其一例として東京大門のトムサム・ゴルフ場は二七ホールに對して一〇〇〇ワット一九個、五〇〇ワット二〇個合計二九キロワットの電力を使用してゐる。又相當大きなゴルフ練習場として東京近郊に於ては



目黒蒲田電鐵等々力停車場附近にあるものは、幅六米長さ三〇〇米の廣さに十數臺の投光器を施設し以て夜間の練習を可能ならしめて居る。大ゴルフ場

照明の尤なる米國シカゴ西ウイルトメツト・ゴルフ場には一〇キロ電球一二四個を取附け、晝間より却つて見易いとの好評を得て居る由である。



第 37 圖

等々力ゴルフ場の照明

五 屋 内 照 明

一、商店照明 經濟界の不況を最も深刻に表現せられたものは商業取引であつて、従つて之に附隨する商店照明が此一年間大いなる飛躍を示し得なかつたことは事實であるが、一面より考へると斯かる不況時にこそ積極的に照明改善を行ひ、これによつて大いに需要を喚起すべきがより効果的なるべく、社團法人照明學會照明知識普及委員會が商業美術家協會と共同主催の下に、東京に於て景氣招來商店照明座談會を數次に互つて開催したことは、誠に機宜に適せるものといふべきであらう。

本座談會は二月十九日より四月十七日に互つて左記十四ヶ所に於て行はれ、相當効果を收めたことは慶賀に堪えない。左記括弧内の中數字は出席者の概數である。

澁谷町(四〇名) 下谷龍泉寺町(五〇名) 大崎町五反田(五〇名) 銀座(四〇名) 上野廣小路(四〇名) 淺草雷門(四〇名) 神田小川町(五〇名) 神田神保町(五〇名) 新宿(五〇名) 四谷塩町(五〇名) 本郷(六〇名) 早稻田(五〇名) 芝神明町(五〇名) 本所(五〇名)

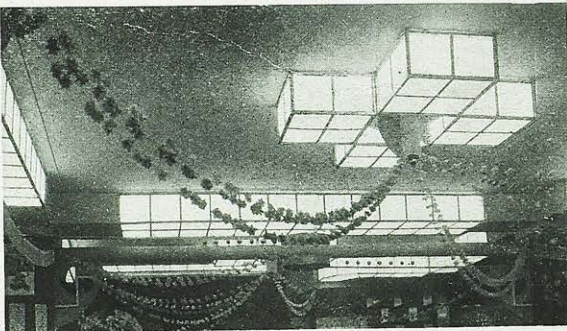
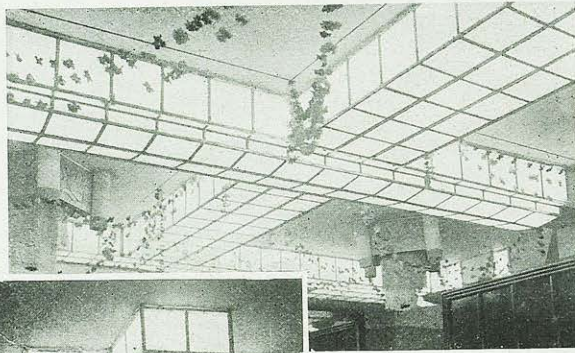
商店照明座談會は地方に於ても行はれ、例へば六月五日盛岡商工會議所及び照明學會共同主催の下に盛岡市役所に於て行はれたものには市長外五〇名の出席を見、特に同日座談會直前の講演會には同市長、商工課長、商品館長及び市内商店主多數の來聴を見たことは商店照明の重要性認識の一證左ともいふべきであらう。

二、建築化照明 建築と照明との融合は或は建築照明兩技術者の圓滑なる協調の重要視せらるゝと共に次第に其度を高め、今や所謂

建築化照明なる一様式を生むに至つた。これは歐洲大陸地方に最も多く行はれて居るものであるが、我國にも漸次其例を見る様になつた。

たゞ此照明は從來の諸方式の如く建築の附帶工事ではなく、直ちに建築の實體に關係するものであるから、新築或は大改築の場合でなければ、これを實施し得ないため急激な流行は一寸期待出來難い。

尙近頃建築化照明施設に適當



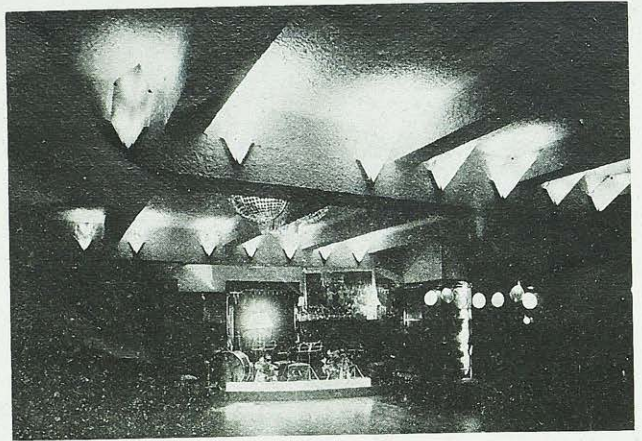
第 38 圖

東京本郷明治製菓賣店の建築化照明

三、カフェー、ダンス・ホールの照明

照明設計の最も大膽な試

輸入せらるゝや直ちにカフェーに應用せられ
 さきに東京銀座のカフェー銀座會館あり續い
 て同地にカフェー赤玉別館に此企てがあつた
 が、保安上の取締規則其他の關係より十分な
 實現を見ることは出来なかつた様である。第
 四一圖はマツダ照明學校に施設せられたコロ
 ラマ照明であつて、此照明の目的たる隠し照
 明によつて種々な色の光と影とによつて壁及
 び天井に模様を畫き、或氣分を出し或は必要

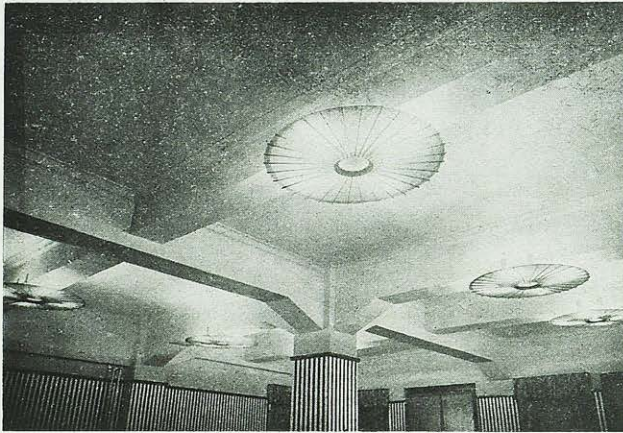


第 39 圖 ダンスホールの照明

レ・パルナスのホールの照明

みはカフェー
 或はダンス・
 ホール等に多
 く之を見るこ
 が出来る。
 一昨年来米
 國に現はれた
 所謂コロラマ
 照明は我邦に

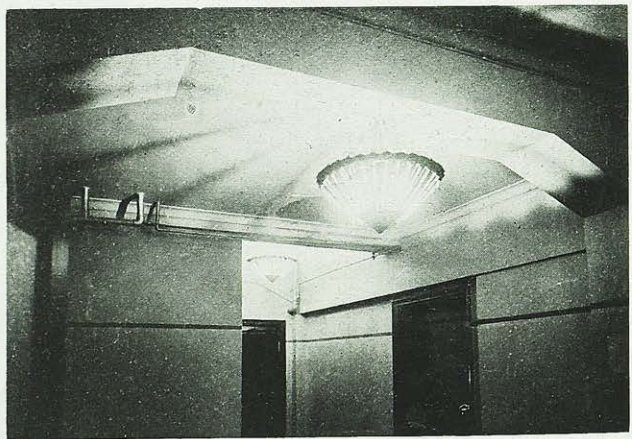
に應じて動きをも
 取入れた、此種の
 類型的なものとい
 てよからう。
 尙マツダ照明學
 校のコロラマ照明
 の調光には我國最
 初の試みたるサイ
 ラトロン調光を採



レ・パルナス練習室の照明

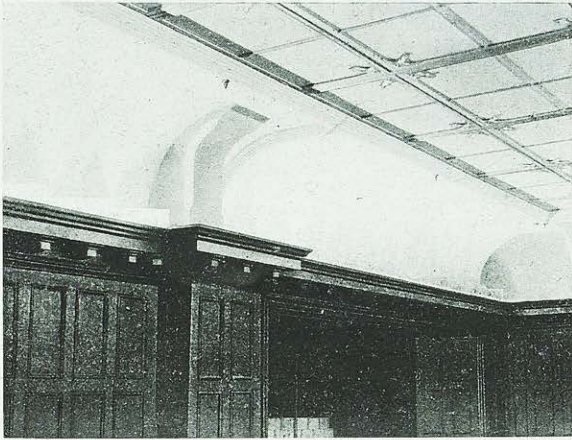
用した。これは從來の抵抗による調光の如く熱
 損失がなく、電力が經濟であるのみならず、場
 所を大きくとらぬ點に於て最も便利とされ、同
 所の調光装置も小箱内に納められホールの一隅
 に置かれてある。

四、工場照明 生産工業に於ける照明の重要
 性は今や一般の認識する所となつた。其一例と
 して昭和六年七月一日より一週間施行された全
 國工場安全週間に當つて、大阪市電氣局が行つ



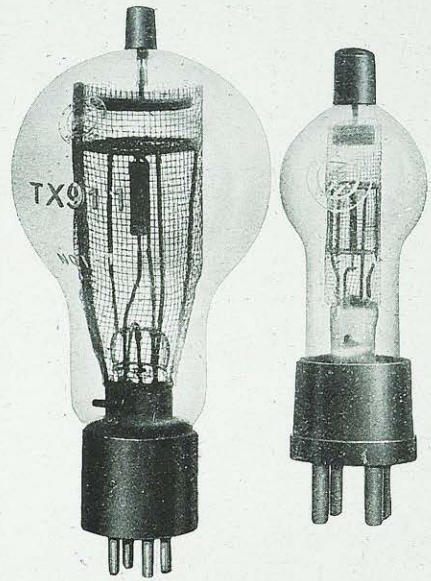
レ・パルナスのロビーの照明

た工場照明改善運動をあげる。同局はこれを機會に關係各工場の照明設備を大いに改善し模範工場たらしむると共に講演會、座談會或は實演等あらゆる方法によつて其重要性



第 41 圖

マツダ照明學校のコロラマ照明



第 40 圖

サイラストロン

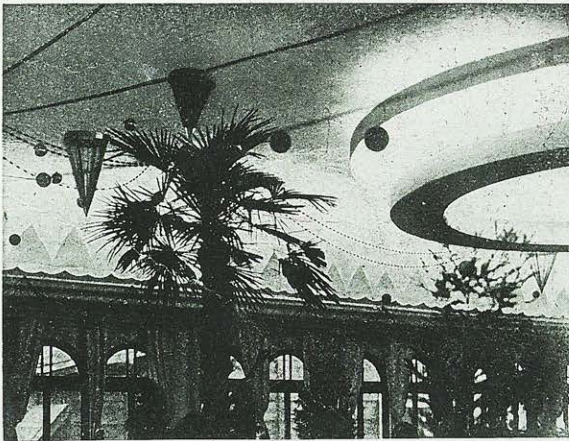
を普及せしめ其改善を促し、更に同週間には電氣普及館に於て工場照明設計の相談に應じたのである。

又同様なる試みとして東京電氣會社照明課は、去る十月大東京市内主要工場主約一〇〇名の參集を得て、工場照明改善につき懇談する所があつた。

工業の萎靡振はざりし昭和六年に於て既に工場照明改善の氣運のあつたことは今後此方面の發展期して待つべきものあるを知るであらう。

五、撮影所

照明 撮影所の照明が白熱電球化せられ弧燈は今や古物視されんとして居ることは最近の著しい傾向である。汎色フィルム completionにより我國に於ては松竹キネマ、日本活動寫眞兩會社を始め各撮影所殆ど全部電球を使用することゝなつた。従つて各種の器具が發達し特に一、〇〇〇ワット二燈用キノライト・サイド或は一、〇〇〇ワット一燈のキノライト・トップが多く用ひられ、前者は單平面に排列された織條を有



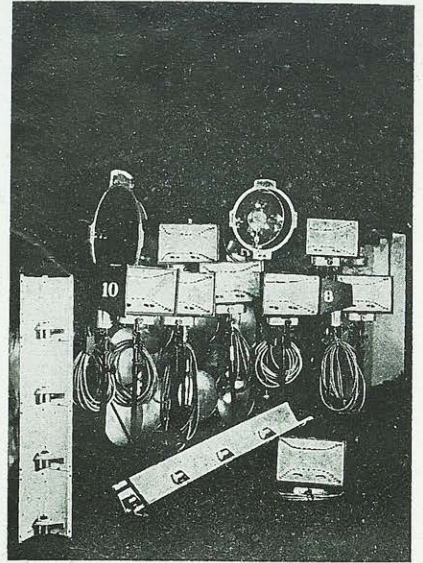
第 42 圖

赤玉別館のコロラマ照明

する電球によつて側面より照明し、後者は天井より吊下けて下方を照らすに使用せられる。此外キノライト・ストリップと稱する極型反射面を有する六〇〇ワット四個用器具も屢々用ひられる。

然るに局部照明器具は上記の全般照明器具の如く普及せずに放任せられて居たが、松竹キネマ蒲田撮影所が先づ之を使用するに及んで、所謂サンスポット器具の需要漸次多きを加へた。これは反射鏡の直径により一二吋、一八吋、二四吋の三種に區別され使用電球も一キロより一〇キロ迄用ひられる。松竹キネマは『怪盗X團』なる映畫撮影に當つて是等器具合計五四臺、一〇〇キロワットの電力を使用したといふ。今後の發達誠に多望といふべきである。

六、真空管の應用 光電管が測光に應用せらるゝことは周知の事實であつて、東京電氣會社は現在電球の測光に常時之を使用し良好の成績をあげて居るのみならず、他の研究所又は試験所に於ても之を使用しつゝある所或は使用せんとして居る所は少くないから、今

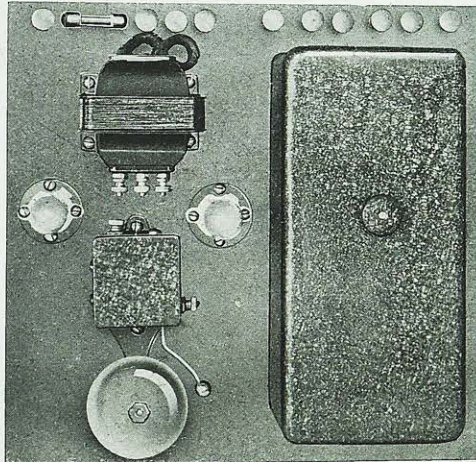


第 43 圖

各種のキノライト器具

等後の通常の測光には漸次光電管使用に推移するものと考へられる。其他學校、工場或は街路等の照明制御に、又交通管制に其照明方面に對する應用は限りなく廣い。

發聲映畫の發達は其間に光電管の進歩が重要な役割を演じつゝあることは周知の所である。昭和六年には松竹キネマ會社はトーキー映畫『マダムと女房』を發表して好評を得、年末更に『若き日の感激』を演出して我國トーキー界の前途に光明をあたへた。今後映畫界が發聲映畫によつて漸次置換へらるゝと共に、光電管の使命は益々重きを加へるであらう。



第 44 圖

オータム装置の警報器

自動警報装置に光電管を利用したもののが我國に於て完成し、セシウム光電管とサイモトロン

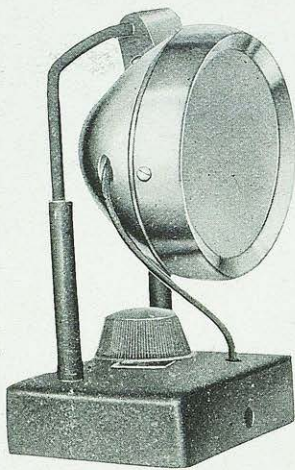
の組合せに赤外線濾光板を通過せる赤外線をあて、訪客其他が赤外線を遮斷することによつてプレート電流を増加せしめ繼電器を動作させる様になつて居る。所謂オートレー装置も同一原理による自動開閉装置であつて、既に我國に於て製作せられて居る。

四極真空管サイトロロンがコロラマ照明の調光に應用せられることは既に述べた。米國イリノイ州の某社は之によつて投光器約二〇〇個を用ひ色彩溢光照明を自社社屋に試み、其白塔の側壁に絶えず變化しつゝある彩光を投げ、數料の遠方よりも眺められ十分な廣告効果を收めた。

其他直接に照明とは關係ないが真空管を應用した樂器セレンミンが我國にも紹介され、

電氣の應用分野が限りなく擴大されつゝあることを示した。

七、今後の開拓 今後照明界に如何なる進歩を見るであらうかの



オータラムの投光器

問題は、簡單に之を豫測することは出来ないが、少くとも近き將來には次の諸項は之が實現を期待してよいと思ふ。



オータラム装置の受光器

等の全般又は局部照明に之が利用され、健康と照明との兩者を同時に得られる照明方式が行はれるであらう。更に米國に既に現はれた窓のない家も實現を見る日があるべく、米國の例は工場のみならず百貨店としても好成績を得て居ることが報ぜられて居る。

スポーツ照明は昭和七年の我國照明界を飾るトピックたるべく、米國の諸例は何れも經濟的にも有利なることを示して居るから、若し球場照明が一ヶ所にも實現されんか、忽ち全國的流行を見るに至るものと考へられる。米國デトロイト大學のデインナン球場は電力三二〇キロワットを以て五〇〇ルクスの照度を得、桑港球場も亦三一〇キロワットに上る取付電力を有する。

夜間航空の隆盛に伴ひ航空標示燈竝に航空港の照明が大いに研究發達を見られると思はれる。これは社團法人照明學會が目下航空照明委員會を設けて研究調査中であるから、その完成によつて照明應用の新方面が茲にも見出されるであらう。

六 學 界 の 狀 況

昭和六年初頭社團法人照明學會は會長山本忠興氏の滿期退任に伴ひ、東京帝國大學教授鯨井恒太郎氏を其後任に迎へ、我國照明工學界の最前線に在つて照明工學の理論竝に實際に關する研究調査竝に照明知識の普及に努力しつゝある。同學會は又六年秋九月英國に開催せられた國際照明會議に参加し、今村、合田、田治木、星合、小林、仁村、俣賀の七代表委員を送り、更に多數の論文及び報告書を提出し會議の目的達成のため相當力を致した。特に活動寫眞照明に就ては日本が理事國たる關係上、各國報告を整理し同委員會に於て

日本代表が幹事として議事進行に當つた由である。

電氣、照明、電信電話三學會の聯合大會は四月三日―五日の三日間名古屋に於て開催せられ、特に宿題講演として『電氣サイン』に就て多數の討論が行はれた。本年は東京市に於て陽春四月日本工學會大會の部會として同様の形式のものが開催されることになつて居るが、其討論題目としては『光電効果と其應用』が採用せられて居る。又本年は巴里に於て萬國電氣會議も開催せらるゝことになつて居るから、これに對しても照明に關する論文が提出されるのみでなく、逓信省電氣試験所技師堀岡正家氏等出席される筈である。

マサチュセッツ工科大学名譽教授ケネリー博士が十一月我國電氣學會の招請に應じて來朝、各地に於て其該博なる蘊蓄を披瀝せられたことは我學界の幸福といはなければならない。

從來家庭電化の普及に對し有力なる機關として全國的活動をなして居た社團法人家庭電氣普及會は、今や其目的を擴充し其名稱も電氣普及會と改めた。同會は故伯爵後藤新平氏等の創立にかゝるもので現に伯爵清浦奎吾氏を會長とし、其機關雜誌『家庭の電氣』には毎號照明に關する記事を見ぬことはない程で、我國照明界の發展に對し重要な役割を演じて居る。近くは去る十二月二十一日より二十六日迄一週間全國的に家庭電氣週間の催しを試み、ラジオ放送其他の普及宣傳を行ふ所があつた。

照明知識の普及機關として特に社團法人照明學會内に設けられた照明知識普及委員會は展覽會、座談會、講演會或は出版物等に夫々實務委員、特別委員を設けて活動して居るが、特に同委員會の編纂にかゝる『古燈器大觀』は古今稀に見る權威的出版であつて、同學

會よりの獻上に對し長くも 天皇、皇后兩陛下、皇太后陛下、秩父宮、澄宮兩殿下には御嘉納あらせられたと承つて居る。

照明普及機關としての照明學校は益々利用せられ、マツダ照明學校に就て其入場者統計を見ると、次の如く略二〇、〇〇〇名の多きに達して居る。

第五表 昭和六年中のマツダ照明學校參觀者

月	人 數
1月	539
2月	828
3月	1,018
4月	995
5月	1,275
6月	1,212
7月	904
8月	262
9月	500
10月	1,040
11月	1,100
12月	186
計	9,864

昭和六年に發表せられた主要な論文としては、山内、久野兩氏の『配光の十進分類法による燈器の分類』、門倉則之氏の『光電管理論と三極光電管の靜特性』、黒澤涼之助氏の『配光指數に關する考察』、山内二郎氏の『球面系の相互反射論』、淺田常三郎氏の『石英水銀燈の光度に就いて』及び『水銀燈の點火とその自動裝置に就いて』等があり、此外歐米各國の白熱タングステン電球の標準仕様書が本城巖氏によつて紹介せられた。是等は何れも照明學會雜誌或は電氣學會雜誌に掲載せられたものであるが、それ以外の雜誌或は新聞等に多數の照明に關する論文が發表せられたことは勿論であつて、我邦照明工學界は益々其基礎を固め以て實際方面の指導的理論を完成しつつある。

昭和六年十月十八日我照明界のみならず世界文明の大恩人たるトーマス・アルヴァ・エジソン翁は行年八十四を以て、米國ウエスト

オレンヂの自邸に長逝せられたことは吾人の一大痛恨事とする所である。翁が其生涯に於て得たる數千百の發明考案は、數百億圓に達する投資を擁する工業の基礎を造り、よつて以て今世紀の科學文明に未曾有の速度をあたへた。我學界は翁の功績を思ひ深く哀悼の意を表するため、電氣協會、照明學會外關係七團體の聯合主催の下に、子爵金子堅太郎氏を會長として、十一月二十七日東京日比谷公會堂に於てエヂソン追悼會を開催したことは、故人のため誠に當を得た方法であつた。

七 結 言

米國に於ける照明方式の變遷

建築家も裝飾家も裝飾に電燈照明を用ひぬ人はないやうになつた。そして以前は電燈照明の必要性は大都市に限られて居つたが、最近では小都會でも重要視されるに至つた。

電燈照明の初期に於ては、燭や蠟燭や石油燈に因んだ古典趣味の意匠の器具が用ひられて居つたが、次第に意匠の簡單な照明本位のものが用ひられ出した。そして側壁に取附けた燈具からの照明が、普通の吊下式照明器具を用ひた場合より優れて居ることが明かとなつたので、半間接照明と云ふ形式が表れて來た。數年前までは建物が出来上つてから照明器具を選ぶやうな傾向であつたが、調和を缺くものが多いと云ふ結果からして、照明は建築の一部分ではないと

以上を以て昭和六年度に於ける照明界の進歩について概略述べたと思ふ。數年來引續いての經濟界不況の爲め一般的進歩としては誠に遅々たるを免れなかつたが、特殊の方面に對しては相當目覺しい躍進を見た様に思はれる。

即ち新しき發明新しき研究は前人未知の新天地を開拓し、將來に對して最も輝かしき希望を残して此一年を終つた。來らん昭和七年度に於ては一陽來復、前年度に於て緒に就きたる新方面の開発が、必ず潑刺たる展開を見せるであらうと思ふ。

云ふことに氣づいて、建築化照明と名づけられる一方が表れるに至つた。この方式では照明器具を取附ける前に適當な準備が必要である。即ち建築設計をすると同時に照明設計をもしなければならぬ。

最近特に照明の價値が重んぜられ、モダンな建築であれば外廊を見せると云ふこと、又公衆も其の美しきを見んと欲求からして、必ず照明が附けられて居る。或る場合には必要以上の照明さへ施されて居る例をよく見かける。

造船方面に於ても船内裝飾照明は善美を盡すことが國際的に競争の状態であり、裝飾照明が重要視されるに至つたことは注目し得る。

商店照明の傾向は間接照明の採用であるが、

其の内で半間接も間接も何れも用ひられて居る。此の方式は屋内の照明としては最上のものであるが、グローブを用ふるより維持費を多く要するので、經濟上の觀點から急速には採用され難いのではないからうか。

最近最も注目し得るのは、晝光の代用としての人工照明の問題である。其の結果として窓のない建築物が米國に於て出現したのである。

例へばマサチウセツツ州のフイツバアクに於けるシモンズ鋸鋼鐵會社の如きは、水銀燈と白熱電燈とを併用し、水銀燈には罩外線の透過硝子のものでさへ用ひて居る。他の一例はワシントン市に於けるパーカー・ブリゲット百貨店の全部の人工照明である。そして窓を全部なくしたため、一日中の照明状態が一定して居つて誠によいと云はれて居る。

内面半艶消電球採用に依る增收策

——マツダ H C・H B 電球使用の増燭勧誘商戦に就て——

東邦電力株式會社 吉 川 康 太 郎

緒 言

鳥兎勿々、新年初頭に當り我々は更に緊張を新たにいたしました。昭和七年度計畫のロードビルに相協力し共存共榮の實を擧ぐる様、茲に誓ひたいのであります。

照明改善運動のうちで直接効果のあるものは商戦(Campaign)であります。我國の現状を見ますに、各電燈會社が獨自の立場に於て、思ひ／＼に行つて居るのであります。これに直接協力して居るのは、電球製造者のみと謂ひ得る状態であります。隨て他社の行ひました商戦の戦術とか實績とかは殆んど不明でありますから、他社の長所を自社の商戦に取り入れることが出来ないものであります。これを歐洲諸國の現状に照らし合せて見ますと、米國ほど進取的でないと聞かされて居た歐洲に於ては、尙我國よりも更に進歩的であり協力的であります。歐洲に於ては電氣協會、電氣普及會などが指導者となつて、工事者組合、電球製造者組合と協力して、全國的商戦(National Campaign)を年中行事として行つて居るのであります。

一九二八年九月米國サラナックに於て催された萬國照明會議の議事録を見ますと、此會議がある十日ほど前に、加奈陀のトロント市

で開かれた第二十二回照明學會總會で、英國のブッシュ氏が歐洲に於ける照明改善運動の近況を報告して居ります。これに依りますと、歐洲各國に於ては運動の一分科として、全國的商戦を毎年行つて居るのであります。飾窓照明の商戦は、獨逸に於て一九二六年全國的に行ひ、裝飾家組合、廣告家組合、電球製造者組合及び電氣協會の各團體が協力して、先づ第一年に於て大成功を修めた結果、第二年目からは大規模に商戦を繼續するだけの資金を容易に儲けたのととであります。これと同じ様に瑞典、諾威、フィンランド、丁秣、瑞西、チェコスロバキヤ、伊太利、英國でも夫々商戦を行つて居りまして、これらの國々は他國の長所を採用して居ります。

住宅照明の商戦は獨逸、英國で盛んに行はれて居りまして、獨逸に於ては住宅電燈の増加をはかるために、聯合會が組織されて居りまして、全國的に統一ある奉仕、商戦が行はれて居ります。英國に於ては電氣普及會と電球製造者組合が聯合して商戦を行つて居ります。實際の活動を行ふため、七つの地方委員會と百二十三の支部會が創立されて居ります。最近白耳義に於ても、同様な商戦を行つて居ります。

我國に於ては電氣協會、電氣普及會が需要開發運動に活動して居

りますが、現在の主なる事業は宣傳、證明、調査研究、雜誌、教育、出版等であります。僅かに商戦に協力する様に見らるゝのは、電氣普及會がレッドシールプラン式の全國的仕様書を作成した事でありますが、これとて各會社の通信商戦(Mail Campaign)を補導する所の宣傳、證明の域を出て居ない様であります。我國に於ても將來は、これらの有力なる協會が全國的商戦に協力するため、實際的活動の出來得る商戦委員會の如きものを組織し、統制ある商戦に立て直すの要ありと考へられるのであります。これを年頭の辭といたしまして、次の本題に入ることになります。

不況時代の商戦

我々のサービスを賣込む先は、住宅商店を第一として居ります。

近時不景氣の深刻化につれて、工業方面の大量的電氣需要の衰退を見るにつけても、住宅商店等の小口需要のロードビルは、我々電燈會社の使命であり、會社を安固に置く最上の弗箱であると信じます。この方針のもとに、我々は特に住宅、商店の照明改善には絶えず努力を怠らないのであります。不景氣の影響で各地に料金値下問題或は料金不拂同盟等が起り、會社の従事員は極度に萎縮して居る際は、勧誘商戦などは効果がなかりでなく、却て需要を刺激すること、なつて、會社に不利を招くものであると言ふ様な、商戦反對論が出て參るのであります。然しこれは眞に杞憂に過ぎないのであります。進取的な電燈會社は、絶へず商戦を行つて居る模様であります。未だ失敗した話は聞かないのであります。私の會社では、不況時の勧誘には充分考慮いたしまして、平時よりも其方法を變へて商戦を行つて居りますが、毎年成功を續けて居るのであ

ります。

不況時の商戦に最も注意すべき點は二つの點であると考へます。一つは建設費をかけないこと、二つには需要家の感情を柔らけるに努むることです。昨秋の電燈勧誘商戦は此方針を實驗したのであります。先づ建設費の問題については、定額燈は、燭力向上のみに止め、新設増設の勧誘は全然行はなかつたのであります。從量燈需要家には電球の特價販賣のみを行ひました。次に需要家の感情問題については、勧誘員は勧誘のみに専念せず、訪問に際しては器具の破損取替へ、掃除、不點箇所修繕等、故障の有無其他需用家の要望を一々伺ひ、専ら奉仕的巡回をなして、勧誘を行つたのであります。この奉仕した件數も相當多數に上つて居ります。

マツダ半艶電球の採用

勧誘商戦には常に目新しい景物が有効であることは一般に認める所でありまして、我社の昨秋の商戦には新發賣のマツダ内面半艶電球を採用いたしました。この電球のみを勧誘に使用したのであります。幸にしてこの電球の持つ良質が直に需用家の趣向に投じたのでありませうか、彌が上にも成績は向上して、僅か二週間位の商戦期間に八八、五八四燈を燭變し、一、三七七、五七四燭光の増加を見たのであります。勿論この好成绩を獲得した原因は他の種々な條件にも依りますが、使用電球が需用家の欲求に合致したことも重要な要件であつたのであります。

マツダ半艶電球の特徴に就ては、社内従事員は勿論需用家に對しても充分徹底する様努めたのであります。支店が作成いたしました社内用及び需用家の宣傳資料を、參考までに左に載せることに

いたします。

社内従事員教育用

HC・HBの特徴に就て

電球の良いとか光質のよいとか言ふのは、概してフキラメントの輝度の高いことに歸着する。(中間略す)夜間新聞を読んだり物を縫つたりする時の、恰度よいあかるさの面の輝きを大約二ミリランバートとすると、瓦斯入電球のフキラメントは二十二萬倍に當り、真空タンゲステン電球でも八萬倍となる。電球が良くなればなるほど、艶消の必要を生じて来る譯である。この點に於て内面艶消電球の輝度は一〇ランバート以内に下つて居るから感じもよく照明上にも良い。

從來の艶消は外面艶消であつた。外面艶消の一番の缺點は汚れ易いのと、汚れた時の掃除が困難である事であつたが、何より一番困るのは外面艶消であるがため、光りの透過が悪くなるので、これが何うしても定額需用家に、積極的に推められなかつた缺點であつた。もう一つは真空タンゲステン電球の様なフキラメントの繼續方法では横だけ明るくて下が暗い缺點を持つて居つたが、之が改められてHの様な一つの點に近い光源、コイルドフキラメントに成功し、瓦斯入電球の様に配光の具合が良くなつて電球の直下も明るくなつたのである。(以下略す)

對需用家宣傳用

新發賣内面半艶瓦斯入電球HCに就て

マツダ瓦斯入電球の特長……光力の豊富なこと、光の色の白いこと、直下の方向に光力の強いこと、能率の良いこと……其儘、内面を半艶消にしてざら／＼を除き、外面艶消の様に硝子面によごれが付く事少なくし、且つよごれても拭へば容易く取れる様にしたのが、此の新發賣内面半艶マツダ瓦斯入電球であります。

勧誘成績の概略

左に勧誘成績の概略を報道して、結語に變へること、いたします。尙勧誘期間は昨年十一月上旬から下旬まで、約十七日間の間に全支店一齊に行つたのであります。

定額之部

(一)燭力を向上せる燈數

(二)増加せる燭數

使用電球内譯	
HC	八八、五八四燈
HB	五三、四八七個
B	三五、〇九五個
二個	
内譯	
舊燭數一、六六七、三六八燭光	
新燭數三、〇四四、九四二燭光	
(一燈當り増燭數二五、五燭光)	
(成績率 目標數六六、九八燭に對し約二五パーセント)	

(三)增收概算

一ヶ年增收額 二四七、一五一圓餘
(歩止り八〇パーセントの場合約二十萬圓となる)

(四)直接支出額(勧誘料、景品代其他を含む)

二九、四一八圓餘

(一燭當り勧誘費 二錢一厘三毛餘)

從量之部

從量燈需用家に豫備の電球を持たせる事は、結局消費量を増すこと、なります。この意味に於て定額増燭勧誘と併行して、從量燈需用家にHB、HC電球を特賣したのであります。

電球特賣數

内譯	
HC	二四、八二二個
HB	二四、六七四個
HB	一四八個

新 春 詠 (一)

高遠電燈株式會社
取締役

豊

島

晃

美簷 苒る 信濃の春の朝にしてこの美しき空を見るかな
 紅ら引く朝日照れくば駒ヶ嶺に豊旗雲のたなびける見ゆ
 下駄棚にすらりと竝ぶ生徒らの小さき下駄の皆新らたなり
 式を待つ時久しければ教室の照る日の方にふみよみてをり(以上元旦詠)
 美しき雪いちめんの夜の道何も思はずふみて我が來し
 さやるもの一つもあらぬ雪の道踏むにくづる、音のよろしき
 伊那谷に降りける雪の限り誠眞白く遮るものなし
 軒燈に照らし出されし道の雪泥にまみれて凍てにけるかも
 月光の斜にさせば凍てし雪青と紅とにあやしや光る
 月よみの光りさやかに照れる道我れ一人ゆくをさみしみにけり
 天そゝる南アルプス正目にし我が見てゐたり悔なき思ひに
 白雲の湧き來と見るに天霧らしたちまちあらず南アルプス
 西駒の峯になづさふ白雲を見はれてをれば雲また來たる
 たゝなはる雪の群山悉く靜けき春の朝日に光る
 雪の山日に光りつゝ、青空に浸るがに見ゆ山の高きに(雪に埋れて)



マツダ閃光電球による

懸賞寫眞入選發表表

本誌昨年八月號で懸賞募集を致しましたマツダ

閃光電球による懸賞寫眞は、吾が寫眞界に劃時代
的の効果を齎らすものと期待されて居りました
が、去る拾壹月拾五日に締切り、同廿八日東京
有樂町電氣俱樂部に於て、鎌田、福原、結城、清
水、關の五審査員の熱心な審査の結果、入選が發
表されました。尙當日東京電氣よりは楠木、佐藤
兩氏、小西六本店の杉浦氏、淺沼商會の野崎氏も
出席されました。

當選寫眞のうち一等、二等、三等は本誌に掲載
してありますが、之れを見られると、家庭内での
夜間撮影が如何に簡單容易に行はれるか、伺はれ
ませう。又手術室の如きマグネシウム・フラッ
シュでは到底撮影出来ぬやうな場所も頗る工合よ
く寫されて居ります。これによつて見ても、如何
にマツダ閃光電球が便利であり、優秀であるかを
物語つて居ると見ることが出来ます。

應募作品中入選されました寄稿家の住所尊名竝
に作品の題名は次の如くであります。

一 等 賞

障子に撮る影法師 東京府下大井町三、五七七

遠 田 禎氏

一 名

お手玉 二 等 賞
京都市下京區寺町通り高辻北入

堀 雄 二氏

踊る小女と三人の手拍子 三 等 賞
神戸市元町一ノ四二

武 田 忠 則氏

手術室 東京市京橋區銀座八ノ一有賀方
米 井 章 祐氏

人形持てる子供 四 等 賞
上田市海の町
關 口 和 夫氏

夜の子供部屋 京都市烏丸仙光寺下河野英方
並 木 綠 郎氏

出生 神戸市林田區宮川町四ノ一八
百 崎 辰 雄氏

日曜の夕 五 等 賞
水戸市上市南町
矢 吹 美 夫氏

勉強 福島市仲町一九
本 田 彦 之 助氏

ピアノ 東京府下大森町山下二、八五〇
山 中 カ ヘイ氏

少女 東京市外目黒町下目黒九〇
堀 緑 郎氏

風船 東京市麻布區十番郵便局前
阿 部 賢 兒氏

佳 作 二 等 賞
京都市本町一の橋
北 川 美 蓉氏

合奏 松本市上土町
平 林 保 雄氏

静物 盛岡市日影門前東北寫眞館
二 葉 柳 影氏

太 田 忠 雄氏

祭の夜 大連市日出町八ノ五 水 野 正 利氏

放送室にて 名古屋市西區名古屋放送局内
松 本 秀 一氏

彈奏 東京市日本橋區吳服橋貳の五 六會館
林 崔氏

子供 東京市京橋區横町三ノ三京屋内
山 本 紅 浪氏

パンジョウ 東京市下谷區竹町二三
石 川 武 三 郎氏

鯉二尾 札幌市南二條西三丁目
三 春 久 平氏

猫 東京市外澁谷町山下一七
原 口 タ キ氏

少女とリンゴ 大阪市東區南久寶寺町二守田方
田 邊 光 葉氏

踊り 富山縣水見郡連川村小久米
高 田 保氏

子供四人 東京市外東中野住吉四八
本 田 親 藏氏

赤ちゃん 東京市下谷區竹町七
武 田 義 一氏

肩をたたく 福島市萬世町三〇
伊 藤 晨 水氏

ガソリン、ステーション 東京市外本田町四ツ木二
北 村 直 四 郎氏

集合 芝區葺手町一八 高 木 靜 園氏

針仕事 東京市外代々木初臺五七八
阿 佐 市 太 郎氏

襟卷 和歌山市北細工町一三
曾 根 ト シヲ氏



マツダ閃光電球使用懸賞寫眞 一等入選作品

障子に撮る影法師

遠田禎氏作



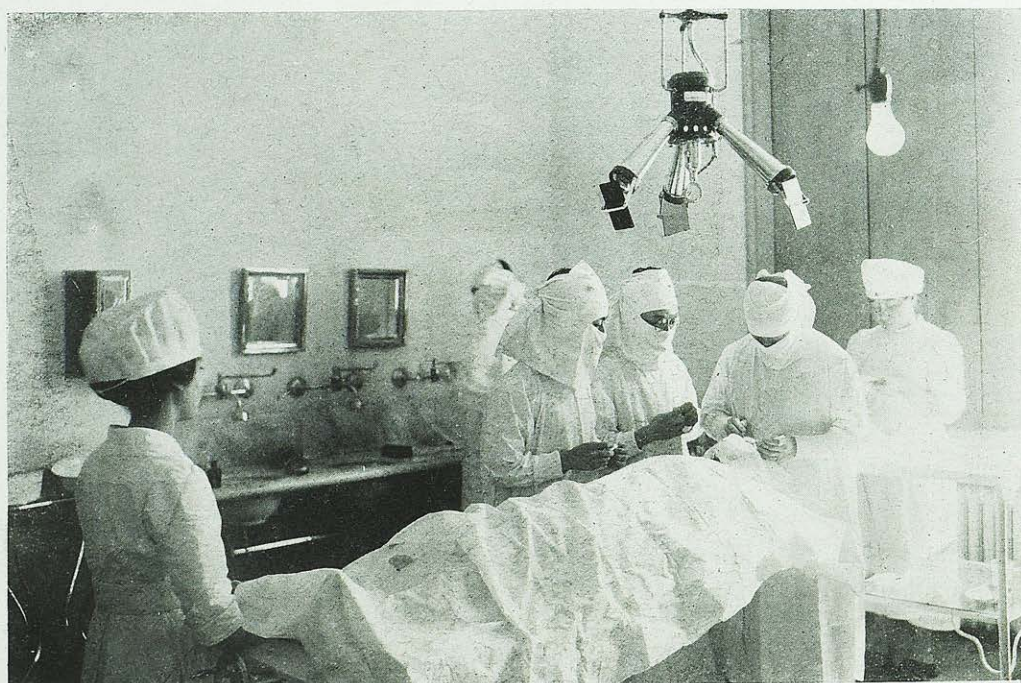
マツダ閃光電球使用懸賞寫眞 二等入選作品

お手玉

堀雄二氏作



踊る少女と三人の手拍子 武田忠則氏作
マツダ閃光電球使用懸賞写真 三等入選作品

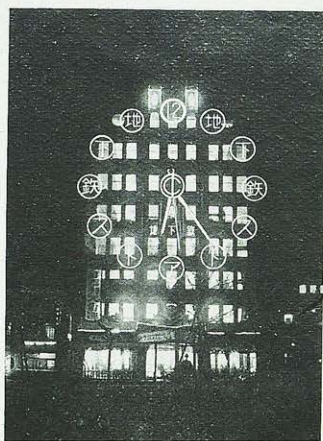


手術室 米井章祐氏作
マツダ閃光電球使用懸賞写真 三等入選作品

照 明

地下鐵上野ストアの
大時計ネオンサイン

昨年十二月一日から華々しく開店した地下鐵上野ストアの堂々たる八層樓。そのモダンを誇る建物の前面全部を使つた大時計のネオ



地下鐵の大時計

ンサインは、開店當時既にラヂオのニュース



に迄報道せられ、最早遍ねく人々に知られて居る事と思ふ。その大きさに於ては世界第一時計の直徑六十六尺に及び、各文字を圍む圓及び中央地下鐵マークは直徑八尺、一二の圓及び時計と分針とが青色、地下鐵マークは綠色、其他は全部赤色ネオン管を使用して居る。そして廿一尺に餘る長大な赤色の秒針が堂々と回轉して居るのを見るときは快哉を叫ばざるを得ない。上野驛に初めて出て來た地方客のみならず、刺戟に魔痺した都會人でも、暫し足を止めて仰ぎ、その壯觀に三嘆する位である。

此大時計に使用したネオンサインは東京電氣の施工に成るものであるが、ネオン管のみの延長が七百五十尺に及ぶ。ネオンサインとしてだけでもその大を誇るに足るものである。因みに此時計設計に關し地下鐵、澤村技師が『科學知識』に發表せられた記事を左に

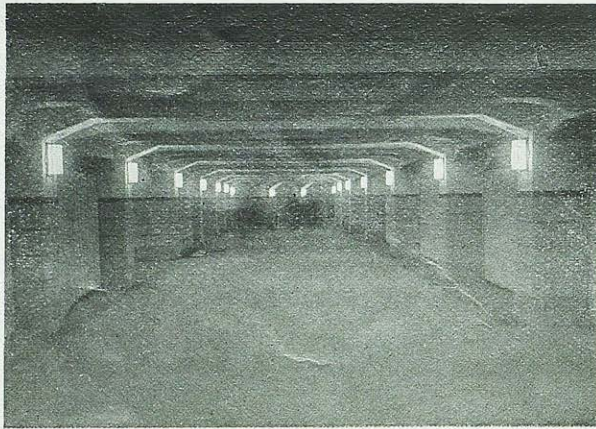
拔萃して置きたいと思ふ。
これは最初早大の川原田博士の發案に成つたものでテレクロンを應用したものであり、時間は極めて正確である。機械は大塚鐵工場の手によつて完成し、是又技術優秀と地下鐵から折紙をつけられて居る。モーターは五馬力で一秒間の廻轉數約一五〇〇、六階食堂に近々一坪の中に收められて居る。
今迄の世界一の時計は米國ニューヨークシ一市コルゲーエトにあるもので次の如き大きさであるが、これによつて見ても地下鐵のものが如何に大きいかが察せられる。

長徑	一一・五米
長針 全長	六・〇米
針の重さ	二九六斤

尙地下鐵の秒針一日の走行距離は七六〇軒即ち一四〇里許り走るとの事である。

上野驛前の公衆地下道

新築中の上野驛前には、東京地下鐵に連絡し、且つ驛正面へ又は向側へ抜ける公衆の地下道が出来た。大都會は上へ上へ、又は下へ下へと立體的に發展する。之も亦東京の新名



公衆地下道内部の照明

所の一つにならう。寫眞は同地下道内部に於ける照明で、使用器具は全部弊社製で、一〇ワット電球が入つて居る。(土居)

銘酒『忠勇』のネオンサイン

新上野驛前に新設された『酒は忠勇』のネ

オンサインは『酒は』が青色、『忠勇』は赤色で點滅式になつて居る。寫眞は赤色の感度が悪い爲に線狀になつて居るが、實際は楕型文

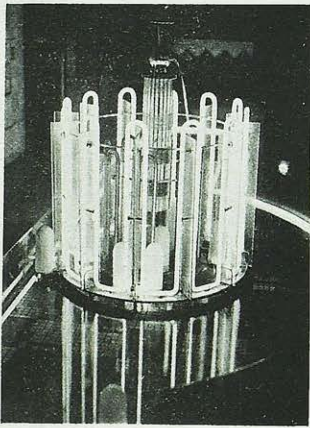


忠勇のネオンサイン

字で忠勇獨特の文字を其儘に遺憾無く發揮して居る。東京電氣の施工である。(石上)

白木屋食堂の噴水ネオン

日本橋白木屋本店が昨秋大増築をなして、堂々たるインターナショナル建築を示して居



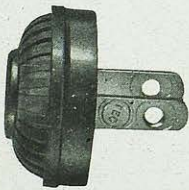
白木屋の噴水ネオン

るが、其際東京電氣の手によつて食堂内に設けられた噴水中のネオンサインは、從來の型を破つて高尚な珍らしいもので、寫眞よりも實物は遙かに美しい。ネオンは黄金色、濃藍色の管を立體的に組み合はせて噴水を圓形に圍み、モザイク張りの池に湛えられた清澄の水に輝り映えて、シイクな姿を現はして居る。ネオン管の延長一三〇尺。(石上)

製品

ポニー・アタツチング・プラグ

吾社工場で極力製作を急いで居つたポニー型のアタツチング・プラグが、愈々今回發賣の運びとなつた。新發賣品はGE製のものに



ポニー・アタツチング・プラグ

比較して優るとも劣らないものである。本品は吾社が誇とする高級デコライトを用ひて居るため、耐熱耐濕、攝氏二〇〇度迄は絶対に變質變形しない。構造が小型であるため組立が困難であるが、吾

社獨創的方法により使用中にコンタクトの不良や、各部取附部分のルーズになるやうなことは絶対にない。

電氣的の見地からしても非常に安全なもので、絶縁試験の結果は新プラグの兩端子間及び兩端子と絶縁された金屬部分との間に、交流一、五〇〇ヴォルトを加へて一分間以上も充分に耐へ、且つ其の間の絶縁抵抗は五〇〇ヴォルトのメガーにて一〇〇メガオーム以上もある。キャツプをボデーに完全に挿込んで一二五ヴォルト六アンペアの交流を通じ、一定溫度に達した時の及び刃挟みの溫度上昇は攝氏數度に過ぎない。

機械的にも丈夫であるが、殊に把持力の如きは一二五ヴォルト五アンペアの交流を通じ一分間一〇回の割合で連續開閉六、〇〇〇回に及び、器具の何れの部分にも支障のないのは勿論、其の場合に刃挟の刃を把持する力は尙一疋以上もある。

かくの如く體裁と云ひ品質と言ひ、誠に優秀な製品であるが、時節柄値段の點については特に留意し、定價一個金十二錢と云ふ破格の廉價である。

ラヂオ

小倉放送局開局式

北九州ラヂオファンに、その開局を待ちこがれてゐたJOSK小倉放送局は、豫定の如く十二月二十一日祝賀放送をかねて第一聲をよびかけた。續いて北九州各地の夕が放送されたが、放送機は吾社製のGRP一三六型を



小倉放送局開局祝賀我社の自動車隊

れ、何れの裝置も人手を借らず、凡て自動化されて居るから、押釦一つで機械の運轉は何時でも停止が行はれ、又保護裝置に於ても十二分の注意も拂はれて居るから、六、〇〇〇ヴォルトの高壓でも萬一事故が起れば、自動的に機械の運轉を停止し、危険を免かれる事になつて居る。尙ほ近來放送局が各所に増設され、これが爲め波長の變動と混信をなすの虞があるので、此れを防止する爲めに水晶發信機を使用し、電力増幅管には水冷式真空管を使用し、出力の増大を圖ることになつて居る點は實に理想的である。

小倉放送局の開局に祝意を表するため、本社福岡出張所では自動車隊を組織して、小倉市内を廻り大宣傳を行つた。

照明學校

十一月中の參觀者

十一月中の照明學校參觀者は、左記の如くであつた。

主なる團體參觀者

逓信省楠瀬技師他
大阪助成會員
海軍水雷學校
花原工場協會大森支部員

二五
二三
三九
四三

海軍少佐石井敬之氏他	二〇
東京第一衛戍病院	二四
海軍横須賀工廠	二六
海軍通信學校	二〇
電信第一聯隊	五二
新しき照明と器具の講習會員	四一
群馬縣女教員觀察團	二〇
小計	三三三

一般參觀者

東京市電氣局經理課長三宅氏、高遠電燈常務取締役黒河内義夫氏、九州電軌守永秀吉氏他
七六七名

拾一月中參觀者合計 一一〇〇名

照明學校内新設備

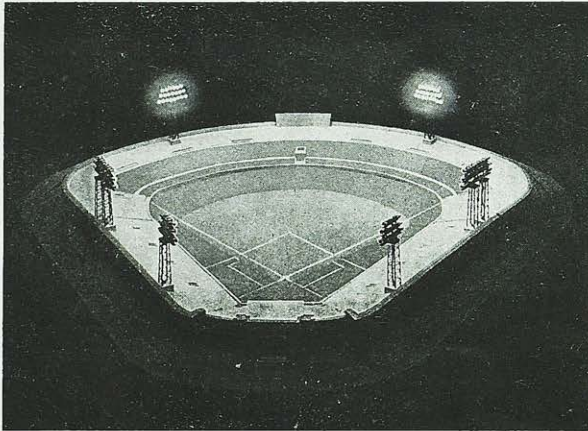
最近照明學校内に新しく設備されたものは次の如くである。

オートラム装置

オートラム装置に就ては本誌昨年十二月號に詳述されて居るが、照明學校に於ては之を以て校内通路に於ける人の通行を報知するために使用して居る。

オートレー装置

オートラムと同様に光電管を用ひて、窓から入る光線の明るさに應じて、室内の電燈の點滅を自動的に行ふ装置であるが、今回照明學校に於ても之を設置し、窓を閉ぢるか、ま



明治神宮野球場の照明設備の模型



オートレー装置

たは夕刻暗くなると共に、自動的に點燈されるやうに裝置した。

神宮野球場の照明設備模型

夜の野球の計畫は吾國に於ても聲だけは随分叫ばれて居る。全くドロンゲームの不愉快をなくすだけでも有難いことである。
今回明治神宮外苑野球場の照明設備の模型が出来上つて、照明學校ホールに設置されてある。寸法は實物の百分の一で、大體一坪餘の大きさである。(關)

雜 報

ケネリー教授の本社參觀

電氣學會岩垂獎學資金によつて招聘されたハーバート大學竝にマサチウセツ工科大学の名譽教授たるアーサー・イー・ケネリー博士



ケネリー博士

は十一月十六日午後來社、川崎各工場、研究所、照明學校等を満足けに參觀された。

ある日の酒

田中貢太郎

十一月二十九日は朝から晩春のやうな、静で暖な日であつた。私は朝から机に向つて大阪時事の小説を書いてゐたが、数日來の酒でどうにも筆が動かない。しかし、原稿に餘裕がないので書かないわけにいかない。無理やりに重いペンを走らして一回終つたところで坂本秋翠君が來た。そこでぶらぶら歩きながら、其の原稿を大森馬込の須藤宗方畫伯の許へとどけることにして家を出た。須藤さんは、私の原稿に挿畫を書いてくれる老畫家で、私の住んでゐる碑文谷からは一里あまりの里程があつた。

坂本君の他に清水君も加はつて、一行は三人であつた。家を出る時、例によつて酒を持つて往つた。もう十二時に近かつた。

私たちは二子玉川大井町線の東洗足驛の前を右に折れて、池上電車の線路の上に架かつた陸橋を渡つて往つた。野菜畑の中を斜に通じた小徑は、前日の雨で可成泥濘つてゐた。馬込町の一角になつた小林の人家の入口になつたところで路は三方に岐れてゐた。郊外の景趣に親しみを持つ私たちは、其の一ばん手前になつた泥濘のはけしい急峻な新開道を右におりて往つた。其處には櫟林があり、竹林

があり、水田があり、丘があつた。丘の麓には、豪駝師が植ゑた柃木畑があつて、そこには眞紅な楓の葉があつた。

『いい處ですね、一ぱいやるのに、』
と清水君が云つた。

『さうだ、彼の草の上で、火を焚きながらやるといいね、』

私は前日須藤さんと清水君の三人で郊外を歩いた時、枯草を焚いて酒をあたためて飲んだ時のことを思ひだした。

『いい處だが、用事がすまんと、しょうがない、』

私たちはいくつかの丘を越して往つた。野菜を洗ふ人、麥を踏む女。丘のはづれでは朝鮮人であらう、數人の土工がトロツコで土を運んでゐた。それは其の丘をきりひらいて住宅地にするかたはら、

其の下になつた水田を埋立てゐるところであつた。其の附近に縦横に通じた新開道の傍には、投げすてられた馬鈴薯が青い莖を出してをり、それといつしよに野菜の萎れかけた葉つばや、里芋の莖を捨ててあるのを、二三人の朝鮮の女がひろつてゐた。

『内地へ來てる、朝鮮人は幸福だよ、』

私は朝鮮へ往つた時、朝鮮の郊外の路ぶちが崩れてしまつて、草らしい草のないのを見て、案内してくれてゐた友人に聞くと、貧民が食料にするために掘るのだと云ふことを聞かされたことを思ひだした。

『君、朝鮮は路ぶちに草が生えとらんよ、』

一時すぎになつて須藤さんの家へ往つて原稿をとどけた私たちはそこから入新井を経て池上の本門寺へ往くことになつたが、腹が空いてゐるので、何處かで飯を喫はなければならぬ。それも杖頭を持つてゐるなら何處へでも往けるが、例によつて懐の淋しい私は、小さい茶店かおでん屋のやうな處で、持つてゐる酒を温めてもらつて、ちよつとしたものでも喫ふより他にしかたがなかつた。

『おい、おでん屋か、茶店があつたら入るぜよ、茶代位はあるから、』

と云つたところで、坂本君が、

『僕は、昨日月給をもらつたから、すこし持つてゐる、先生これで何處か、いい處へ入りませう、』

と云つて五圓札を出した。

『たまるか、持つちよるのう、それなら、ちくと方法があるぜよ、』

五圓札があるなら、汚い茶店なんかへ入る必要はなかつた。

『よし、本門寺まで歩かう、彼處へ行きや、いい處がある、』

入新井の町から本門寺までは十町あまりあつた。私たちは一度其の道を通つてゐるので、やはり前回のやうに本門寺の裏山からあが

つて往くことにしたが、しかし、裏山の方は道が判りにくいので、池上町の本通りに出やうと云ふことになり、松や杉の茂つた丘の傍を通つて、池上電車の線路の方へ曲つて往つた。そこは新に切り開いた路であつた。池上の町はづれになつた蘆原がすぐ眼の前に來た。私たちは其の蘆原を右に見て、左に本門寺つづきの丘に沿つた古い道を往つた。路傍の生垣に沿つて七十あまりの老翁が、小さい桶の中へ入れた里芋をごろごろと洗つてゐたが、其の老翁の禿けた頭には暖い冬の陽があつた。

本門寺の入口になつた旅館兼飲食店の離れのやうな一室へ通つたのは二時すぎであつた。其處は私たちが時をり夜來吟社の俳句會をやる家であつた。かつて夜來吟社の俳句會をやつて、其の後で酒にしたところで、其の時ついてゐた鮎の魚軒を見て、銚子を持つて來たお嬢さんに、

『おいお嬢さん、此の魚軒はほんたうの魚かね、』

と云つてからかふと、

『なんですつて、』

と云つて眼の色をかへた。

『魚のやうにもあるが、こんな山奥には魚はあるまい、いつたい、これはなんの魚軒かね、』

と云つてまたからかふと、お嬢さんは火のやうになつて、

『白痴にするのも、いいかけんになさいよ、氣に入らなけや、よすがいいや、』

お嬢さんは持つて来た銚子をたたきつけるやうにして出て往つた。と、同行者の竹仔君が、

『おいおいお嬢さん、冗談だよ、お嬢さんが可愛いからついからかつたのだよ、』

と云つたので一座は大笑ひになつたことがあつた。私たちは本門寺の方へ散策に往つた時には、必ず其の家へ寄ることになつてゐた。

私たちは座につくと、すぐ持つて往つた酒の包を解き、肴を出した。魚は土佐から取りよせた沙魚で、酒は四合壘が二本であつた。

そこで一本の酒を温めてもらひ一本は冷酒で飲むことにして、これも袖に入れて往つてゐた盃へ注いだ。其の酒は大阪の税務監督局に

ゐる猪野々正治君から送つてくれたもので、それは今年の二府十縣の品評會に用ゐたもので、皆名譽賞と優等賞に入つた物ばかりであつた。其の持つて往つたのは、私の郷里でできる『瀧風』と云ふ

酒と、他の一本は奈良の酒であつた。私たちは瀧風を飲んでゐた。私の郷里には、此の瀧風の他に、司牡丹、富士川、仁淀川、葉柳な

どと云つて、最近灘の酒を凌駕するやうなりつばな酒が出来るが、殊に司牡丹と瀧風は癖がなくて良酒であつた。

瀧風がなくなつたところで、初めの婢が二本の銚子をほんに乗せて持つて來た。

『洵にすみませんが、壘のままつけたものですから、底かぬけました、なんとも申しわけがございせんが、家の酒をかはりに持つて

來ましたから、』

と云つた。私はがっかりした。

『しまつた。姐さん、あれや、此方ぢや手に入らん酒だよ、品評會に出した酒でね、』

と云つてはみたものの、破れてしまつてはしかたがない。それに婢がひどく恐縮してゐるので、

『まあいい、われたものならしかたがない、いい、いい、』
私たちはしかたなく其の代りだと云つて持つて來た酒を飲んだが

初めに良い酒を飲んでゐるので、どうにも飲めない。そこで酒はきりあけて飯を喫つて其處を出た。

『これから、何處へ往かうか、』
と私が云ふと、清水君が、

『さうですね、下丸子の方へは何回も往つてゐるから、何處かちがつた處へ往きませうか、』
と云ふので、

『それぢや、大森の方へ出てみよう、』
と云つて、其處から乗合自動車で大森驛へ出た。

『へんな酒を飲まされて、後が悪い、何處かへ往つて飲みなほさうどうせ電車に乗るなら、家へ歸るも東京へ往くのも同じことだ、東京へ往かう、』

本門寺の旅館で拂つた金の残りが二圓あまりあつた。そこで一行はいよいよ東京へ往くことにして有樂町までの切符を買つた。有樂町驛の近くには、可川と云ふ私の宿坊があつた。

私たちは其の可川へ往つた。錫の容器へ入れて沸してくる白麴は旨かつた。五時すぎまで飲んで、飲み疲れたので、これから日比谷公園を歩いて歸らうかと云つてゐるところへ、林讓治君が來た。林君は林有造翁の御曹子で、土佐出身の代議士である。私と林君は親しかつた。

『よう、』

『よう、』

『此の比は、どうぞよ、』

『いかん、いかん、今日は女の子を伴れて、活動を見に往ちよつた、』

林君は其處のお嬢さんと、女給を伴れて活動を見に往つてゐたところであつた。

『それや怪しからん、主翁が怒るぜよ、まあ、一ばいやらう、』
『あしや、酒はやめちよる、今日は禁酒ぢや、』

例の徳富蘇峰さんが土佐の事を書いて、土佐人は深刻なりと——それはありますよ。一時地方で一番人殺しが多かったのは、土佐でありました。今は變つて來ましたけれども、併しその恨みはいつか忘れてしまふ。餘所の人と私共交際してもさうだが、あの男はよいと思つて居つたが、案外だといふ人があるが、土佐の奴はさうぢやない。悪い奴は始めから悪い。偽せ物はゐない。單純ですが、土地なんかも割合天然に恵まれてゐます。農産物はないが、山々には木

と云ひ云ひ林君は私たちの卓の方へ寄つて來た。
『今日は歩きよつた、本門寺の方を歩きよつたが、本門寺がたうとう東京になつた、』

私たちはまたそこで林君を中にしてひとしきり酒を飲んだ。酒がまはると、林君は盛節を唄ひ、土佐の民謠を唄つた。坂本君と清水君は新體詩の朗吟をやつた。

話はいつのまにか政治の方へ往つた。幣原外交がどうだとか、滿洲事件がどうだとか云つてゐるうちに、私はすっかり酔つてゐた。そこで私たちは林君と別れて歸ることにして其處を出たが、歩くのもうるさいので、圓タクをひろつて目黒まで來たところで、また何處かへ往かうと云ふことになつて、たうとう洗足驛前の松風と云ふのへ往つておそくまで飲んだが、其のうちに私は苦しくなつたので坂本君と清水君を残しておいて歸つた。それはもう十二時に近い頃であつた。

があり、海には近い。村には大金持ちもない——岩崎は大金持ちだけれども。が、他に大きな貧乏人もない。酒なんかも飲まうと思ふ奴は、ゆるやかだから飲みます。今はさうでないか知れませんが、私共村に居りました時、祭りの時なんかは、村から三里も追かけて行つて、彼奴面白さうだから飲ませてやれと、呼戻して來て飲んで歩く。氏神の祭禮があると、先から先と飲んで歩いて考へると、三里も先の村へ行つて飲んで

るといふ、酔ひつかれて、村の知つてゐる者に連れられて歸ることもあります。それだけ緩かです、私など酒を飲み出したのはさういふ譯で。それから土佐の景色ですが、これも良いといへば良いし、悪いといへば悪い。東京日日新聞が二十八景を募つた時、室戸岬が入りましたけれども、それほどよいところではない。それより他にもつとよいところがあるやうですけれどもまア他は平凡なところです。

文藝春秋主催『お國自慢の座談會』より

